

# 日本アイソトープ協会の学術活動

平成20年度

発行 社団法人 日本アイソトープ協会

# 目 次

1. 会員	
1.1 会員数の推移（会員種別、年度別）	1
1.2 所属部会別会員数（法人、賛助含む）	1
1.3 年齢階層別会員数（個人正会員のみ）	1
2. 部会・委員会	2
2.1 理工学部会	2
2.1.1 概要	2
2.1.2 第22期理工学部会	2
2.2 ライフサイエンス部会	4
2.2.1 概要	4
2.2.2 第22期ライフサイエンス部会	4
2.3 医学・薬学部会	7
2.3.1 概要	7
2.3.2 第22期医学・薬学部会	7
2.4 放射線取扱主任者部会	12
2.4.1 概要	12
2.4.2 第25期放射線取扱主任者部会	12
2.5 その他の委員会	15
2.6 講演会・見学会等	17
2.6.1 理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会	17
2.6.2 放射線取扱主任者部会	21
2.6.3 NMCC共同利用委員会	23
3. 第45回アイソトープ・放射線研究発表会	23
4. C-J-K Congress	23
5. 講習会	24
5.1 文部科学省・厚生労働省登録講習	24
5.1.1 第1種放射線取扱主任者講習	24
5.1.2 第3種放射線取扱主任者講習	24
5.1.3 放射線取扱主任者定期講習	25
5.1.4 第一種作業環境測定士（放射性物質）講習	26
5.2 その他講習会	26
5.2.1 アイソトープ基礎技術入門講習会	26
5.2.2 ラジオアイソトープ安全取扱講習会	26
5.2.3 密封線源安全取扱講習会	26
5.2.4 第1種主任者育成講習会	27
5.2.5 第2種主任者育成講習会	27
5.2.6 アイソトープ土曜講座	27

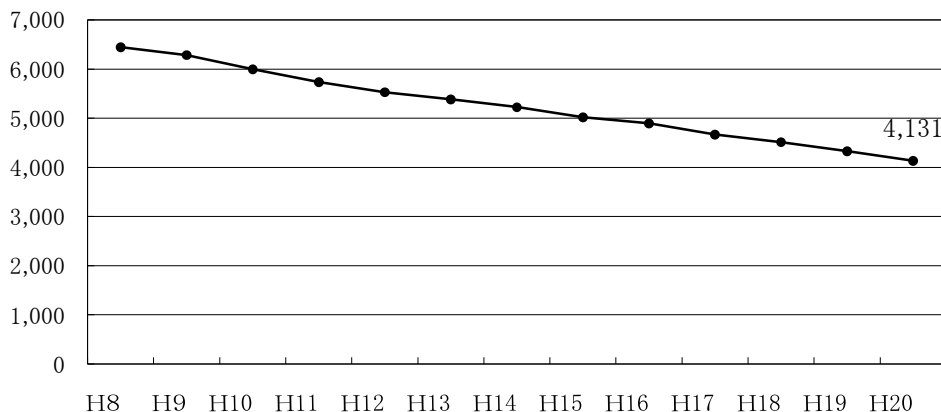
5.3	放射線滅菌等に関する研修	28
5.3.1	微生物取扱技術基本コース	28
6.	図書等の発行	29
6.1	機関誌	29
6.1.1	Isotope News	29
6.1.2	RADIOISOTOPES	29
6.2	出版物等	29
7.	受託研究等	30
7.1	受託試験	30
7.1.1	放射線照射	30
7.1.2	微生物試験	30
8.	共同利用	30
8.1	仁科記念サイクロトロンセンター共同利用	30
8.2	甲賀研究所放射線照射施設共同利用	30
9.	普及・啓発	31
9.1	第12回(2008年)RADIOISOTOPES誌論文奨励賞	31
9.2	仁科記念シンポジウム 「アイソトープ科学の最前線ー核物理から核医学までー」	31
9.3	アイソトープの利用促進	31
9.4	滝沢研究所	31
9.4.1	第17回滝沢研究所施設公開	31
9.4.2	武見記念館	31
9.5	甲賀研究所	32
9.5.1	施設見学	32
9.6	第49回「科学技術週間」施設公開	32
10.	図書室の活動	33
10.1	新規収蔵図書	33
10.2	収蔵定期刊行物	37
11.	事務局組織	38
資料	部会活動の経過及び成果公表資料	39
1.	理工学部会	39
2.	ライフサイエンス部会	44
3.	医学・薬学部会	46
4.	放射線取扱主任者部会	53

# 1. 会員

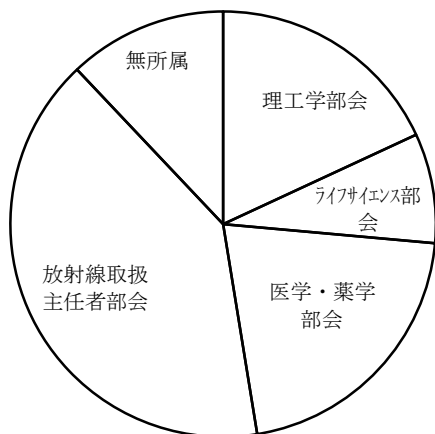
## 1.1. 会員数の推移（会員種別、年度別）（各年度3月末日現在）

区分	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
個人正会員	6,112	5,950	5,679	5,423	5,216	4,860	4,685	4,474	4,307	4,100	3,914	3,733	3,526
法人正会員	273	275	265	261	265	270	259	249	242	234	239	240	240
特別会員						206	233	252	304	293	325	319	331
賛助会員	59	58	52	48	47	47	46	41	39	37	34	34	34
計	6,444	6,283	5,996	5,732	5,528	5,383	5,223	5,016	4,892	4,664	4,512	4,326	4,131

会員数の推移(法人、賛助含む)



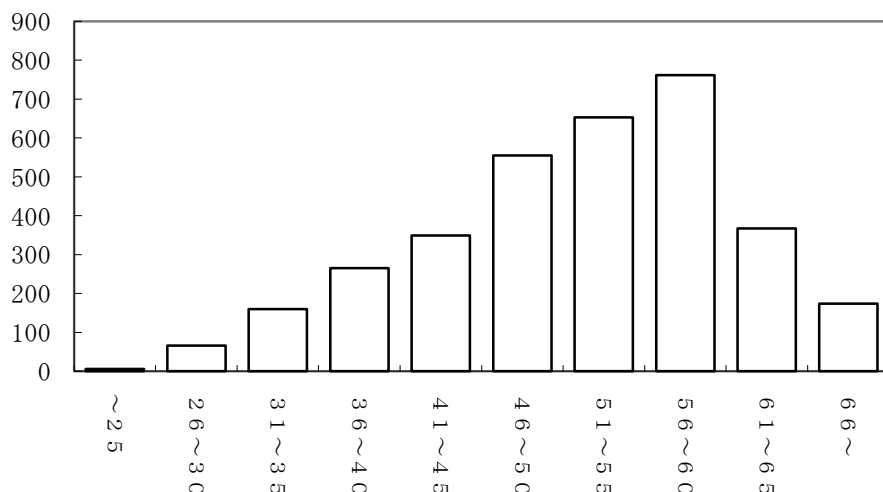
## 1.2. 所属部会別会員数（法人、賛助含む）（平成21年3月末日現在）



理工学部会	1,210
ライフサイエンス部会	558
医学・薬学部会	1,405
放射線取扱主任者部会	2,710
無所属	806
延 計	6,689

(注) 会員は複数の部会に所属できる

## 1.3. 年齢階層別会員数（個人正会員のみ）（平成21年3月末日現在）



## 2. 部会・委員会

### 2.1 理工学部会

#### 2.1.1 概要

理工学部会ではアイソトープの理工学分野への利用に関する調査研究や部会員相互の研究連絡ならびに技術の向上に資するため、講演会、勉強会、見学会などを行うとともに、必要に応じ専門委員会を設けて、所要の調査・研究活動を実施しています。

#### 2.1.2 第22期理工学部会（任期：平成20年6月～平成22年5月）の構成

##### 常任委員会

理工学分野におけるR I・放射線の利用促進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。

部会長	鷲尾 方一	早稲田大学理工学術院総合研究所理工学研究所
副部会長	井口 哲夫	名古屋大学大学院工学研究科
	今泉 洋	新潟大学自然科学系（工学部）
常任委員	青山 道夫	気象庁気象研究所
	大石 晃嗣	清水建設(株)技術研究所
	小嶋 拓治	(独)日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所
	小林 久夫	立教大学名誉教授
	後藤 彰	(独)理化学研究所仁科加速器研究センター
	佐藤 俊文	(株)東芝 府中事業所
	柴田 徳思	(独)日本原子力研究開発機構J-PARCセンター
	白川 芳幸	(独)放射線医学総合研究所
	高橋 浩之	東京大学大学院工学系研究科
	田川 精一	大阪大学産業科学研究所
	桧野 良穂	(独)産業技術総合研究所
	藤浪 眞紀	千葉大学大学院工学研究科
	松原 昌平	アロカ(株)
	山本 匡吾	帝国ピストンリング(株)
	吉田 真	(独)日本原子力研究開発機構東海研究開発センター

##### 放射線防護機器専門委員会

放射線施設における放射線防護用設備・機器の適切な使用に資するため、「放射線防護用設備・機器ガイド」を編集し利用者の便に供する。

委員長	桧野 良穂	(独)産業技術総合研究所
委員	草尾 豊	(株)千代田テクノ
	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	野村 貴美	東京大学大学院工学系研究科
	松原 昌平	アロカ(株)
	武藤 利雄	(地独)東京都立産業技術研究センター

\*) 所属は平成21年3月現在

### 超低レベル放射能測定専門委員会

通常の放射線計測技術では測定が困難なあるいは検出が不可能な極微弱放射能の測定の重要性が増している現状を認識し、超低レベル放射能測定技術の発展と展望を探るために調査・検討を行う。

委員長	青山 道夫	気象庁気象研究所
委員	秋山 正和	(財)日本分析センター
	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
	大塚 良仁	(財)環境科学技術研究所
	櫻井 敬久	山形大学理学部
	高橋 暁美	福井県原子力環境監視センター
	安田 健一郎	(独)日本原子力研究開発機構原子力基礎工学研究部門

### 中性子イメージング専門委員会

中性子ラジオグラフィの現状を認識し、その技術の発展と展望を探るための調査・検討を行う。

委員長	小林 久夫	立教大学名誉教授
委員	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
	兼松 学	東京理科大学理工学部
	川端 祐司	京都大学原子炉実験所
	鬼柳 善明	北海道大学大学院工学研究科
	竹中 信幸	神戸大学大学院工学研究科
	玉置 昌義	TAMAKI記念研究所
	松嶋 卯月	岩手大学農学部
	松林 政仁	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	持木 幸一	武蔵工業大学工学部
	安田 良	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門

## 2.2 ライフサイエンス部会

### 2.2.1 概要

ライフサイエンス部会では、アイソトープのライフサイエンス分野への利用に伴う諸問題の調査研究、審議検討、連絡調整などを各専門委員会を中心に実施しています。

### 2.2.2 第22期ライフサイエンス部会（任期：平成20年6月～平成22年5月）の構成

常任委員会		
ライフサイエンス分野におけるR I・放射線の利用推進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	唐木 英明	東京大学名誉教授
副部会長	小島 周二	東京理科大学薬学部
	都筑 幹夫	東京薬科大学生命科学部
常任委員	東 順一	京都大学大学院農学研究科
	井尻 憲一	東京大学アイソトープ総合センター
	伊藤 伸彦	北里大学獣医学部
	稲波 修	北海道大学大学院獣医学研究科
	大森 正之	中央大学理工学部
	白岩 善博	筑波大学大学院生命環境科学研究科
	高橋 千太郎	京都大学原子炉実験所
	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
	林 徹	(独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所
	山川 武夫	九州大学大学院農学研究院
	米山 忠克	東京大学大学院農学生命科学研究科

企画専門委員会		
ライフサイエンス部会の活動全般にわたる企画・立案、調整・運営について検討し、常任委員会に意見具申する。		
委員長	白岩 善博	筑波大学大学院生命環境科学研究科
委員	笠井 清美	(独)放射線医学総合研究所
	小島 周二	東京理科大学薬学部
	佐々木 徹	(財)東京都高齢者研究・福祉振興財団東京都老人総合研究所
	竹島 一仁	名古屋大学アイソトープ総合センター
	塚田 祥文	(財)環境科学技術研究所
	都筑 幹夫	東京薬科大学生命科学部
	丹生谷 博	東京農工大学遺伝子実験施設
	星野 洪郎	群馬大学大学院医学系研究科
	柳沢 啓	(独)放射線医学総合研究所

#### アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会

主にライフサイエンス分野の研究活動を促進するため、アイソトープをトレーサとして用いる研究用（一部教育用も含む）の機器について情報を収集し、研究者に対し広く知らせるための諸活動を行う。

委員長	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
委員	土井 妙子	(独)国立環境研究所
	野川 憲夫	東京大学アイソトープ総合センター
	平石 佳之	アロカ(株)
	堀江 正信	東京薬科大学薬学部
	松江 秀明	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	吉田 聡	(独)放射線医学総合研究所

#### 安定同位元素専門委員会

安定同位元素に関し、その研究・利用の全般的な推進に資する活動を行う。

委員長	米山 忠克	東京大学大学院農学生命科学研究科
委員	足立 恭子	新日鐵化学(株)回路実装材料研究所
	上垣 隆一	(独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所
	風早 康平	(独)産業技術総合研究所
	梶原 康宏	横浜薬科大学薬学部
	高取 和彦	明治薬科大学薬学部
	中田 浩二	東京慈恵会医科大学附属青戸病院
	濱 健夫	筑波大学大学院生命環境科学研究科
	村岡 研一	昭光通商(株)

#### 薬学・薬理学研究専門委員会

薬学・薬理学研究分野におけるアイソトープ利用の促進を図るための諸活動を行う。

委員長	小島 周二	東京理科大学薬学部
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	金子 実	東京理科大学環境保全センター
	佐々木 徹	(財)東京都高齢者研究・福祉振興財団東京都老人総合研究所
	杉山 英男	国立保健医療科学院
	堀江 正信	東京薬科大学薬学部
	三原 隆一	味の素(株)医薬カンパニー

#### 獣医核医学専門委員会

伴侶動物への核医学診療における諸問題を検討する。

委員長	唐木 英明	東京大学名誉教授
委員	伊藤 伸彦	北里大学獣医学部
	井上 登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
	大森 伸男	(社)日本獣医師会
	佐々木 伸雄	東京大学大学院農学生命科学研究科
	柴田 徳思	(独)日本原子力研究開発機構J-PARCセンター
	下田 実	東京農工大学農学部
	山口 一郎	国立保健医療科学院



食品照射専門委員会

食品照射についての内外の情報を集め、調査・検討を行う。

委員長	林 徹	(独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所
委員	木下 雅仁	(社)日本原子力産業協会
	小林 泰彦	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	関口 正之	(地独)東京都立産業技術研究センター
	高橋 和良	全日本スパイス協会
	多田 幹郎	中国学園大学現代生活学部
	等々力 節子	(独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所
	古田 雅一	大阪府立大学大学院理学系研究科

## 2.3 医学・薬学部会

### 2.3.1 概要

医学・薬学部会では、アイソトープの医学、薬学分野への利用に伴う諸問題の調査研究、審議検討、連絡調整などを専門委員会を中心に実施しています。

### 2.3.2 第22期医学・薬学部会（任期：平成20年6月～平成22年5月）の構成

常任委員会		
医学・薬学分野におけるR I・放射線の利用促進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	久保 敦司	慶應義塾大学医学部
副部会長	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	山下 孝	癌研有明病院
	米倉 義晴	(独)放射線医学総合研究所
常任委員	油野 民雄	旭川医科大学
	家入 蒼生夫	獨協医科大学
	井上 登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
	遠藤 啓吾	群馬大学大学院医学系研究科
	大野 和子	京都医療科学大学医療科学部
	菅野 巖	(独)放射線医学総合研究所
	日下部きよ子	東京女子医科大学
	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
	小西 淳二	杉田玄白記念公立小浜病院病院長
	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	玉木 長良	北海道大学大学院医学研究科
	辻井 博彦	(独)放射線医学総合研究所
	利波 紀久	富山県済生会富山病院
	中條 政敬	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
	福喜多 博義	国立国際医療センター国府台病院
	福田 寛	東北大学加齢医学研究所
	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
	前田 稔	九州大学大学院薬学研究院
	松田 博史	埼玉医科大学国際医療センター

企画専門委員会		
部会活動の見直しと活性化を図るため企画、立案、調整を行う。		
委員長	久保 敦司	慶應義塾大学医学部
副委員長	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
委員	尾川 浩一	法政大学理工学部
	織内 昇	群馬大学大学院医学系研究科
	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
	小泉 満	(独)放射線医学総合研究所
	中嶋 憲一	金沢大学医薬保健研究域医学系
	中村 佳代子	慶應義塾大学医学部
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	福喜多 博義	国立国際医療センター国府台病院
	藤井 博史	国立がんセンター東病院

#### 核医学イメージング・検査技術専門委員会

①核医学イメージング技術水準の向上に資するため、イメージングの規格化に関する検討を行う。

②核医学検査技術の向上と核医学機器の安全管理に関する調査・検討を行う。

委員長	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
副委員長	福喜多 博義	国立国際医療センター国府台病院
委員	飯田 恭人	東京大学医学部附属病院
	大西 英雄	県立広島大学大学院総合学術研究科
	金谷 信一	東京女子医科大学病院
	木田 哲生	滋賀医科大学医学部附属病院
	篠原 広行	首都大学東京健康福祉学部
	松田 博史	埼玉医科大学国際医療センター
	丸野 広大	虎の門病院
	村山 秀雄	(独)放射線医学総合研究所
	山田 正人	金沢大学附属病院
	渡辺 俊明	公立昭和病院

#### インビトロテスト専門委員会

イムノアッセイ検査を含むR I インビトロ検査の精度管理の向上を図り、かつ、利用促進に関する検討を行う。

委員長	家入 蒼生夫	獨協医科大学
委員	池田 斉	埼玉医科大学総合医療センター
	小田桐 恵美	東京女子医科大学
	片上 秀喜	帝京大学ちば総合医療センター
	亀子 光明	長野市民病院
	桑 克彦	筑波大学大学院人間総合科学研究科
	竹岡 啓子	大阪大学医学部附属病院
	武田 京子	聖路加国際病院
	日高 洋	大阪大学大学院医学系研究科

#### 放射性医薬品専門委員会

放射性医薬品の利用促進と施設内取扱いに関する検討を行う。

委員長	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	井上 修	大阪大学大学院医学系研究科
	小野口 昌久	金沢大学医薬保健研究域保健学系
	金谷 信一	東京女子医科大学病院
	窪田 和雄	国立国際医療センター戸山病院
	藤林 靖久	福井大学高エネルギー医学研究センター
	前田 稔	九州大学大学院薬学研究院
	間賀田 泰寛	浜松医科大学光量子医学研究センター
	安原 真人	東京医科歯科大学医学部附属病院

### 放射性医薬品安全性専門委員会

放射性医薬品の安全性確保に資するため、放射性医薬品副作用事例等の調査・検討を行う。

委員長	松田 博史	埼玉医科大学国際医療センター
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	岡沢 秀彦	福井大学高エネルギー医学研究センター
	岡村 光英	大阪府済生会中津病院
	水村 直	東邦大学医療センター大森病院
	横山 邦彦	公立松任石川中央病院

### ポジトロン核医学利用専門委員会

ポジトロン放出核種による放射性薬剤の成熟技術・成熟薬剤の認定と指針の作成を行い、PET検査の臨床利用に関する検討を行う。

委員長	米倉 義晴	(独)放射線医学総合研究所
副委員長	井上 登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
委員	伊藤 健吾	国立長寿医療センター研究所
	織内 昇	群馬大学大学院医学系研究科
	千田 道雄	先端医療センター
	玉木 長良	北海道大学大学院医学研究科
	畑澤 順	大阪大学大学院医学研究科
	福田 寛	東北大学加齢医学研究所
	福村 利光	(独)放射線医学総合研究所
	藤林 靖久	福井大学高エネルギー医学研究センター
	間賀田 泰寛	浜松医科大学光量子医学研究センター

### 医療放射線管理専門委員会

核医学検査等における放射線管理に関する検討を行う。

委員長	井上 登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
副委員長	菊地 透	自治医科大学RIセンター
委員	大野 和子	京都医療科学大学医療科学部
	日下部きよ子	東京女子医科大学
	山口 一郎	国立保健医療科学院
	山下 孝	癌研有明病院

### 放射線治療専門委員会

密封線源等による放射線治療に関する検討を行う。

委員長	山下 孝	癌研有明病院
委員	井上 武宏	大阪大学大学院医学系研究科
	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	土器屋 卓志	埼玉医科大学国際医療センター
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	晴山 雅人	札幌医科大学

#### 放射性医薬品の臨床評価専門委員会

放射性医薬品の開発を推進するため、放射性医薬品の臨床評価のためのガイドライン作成に向けた検討を行う。

委員長	油野 民雄	旭川医科大学
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	日下部きよ子	東京女子医科大学
	久保 敦司	慶應義塾大学医学部
	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	中村佳代子	慶應義塾大学医学部
	西村 重敬	埼玉医科大学国際医療センター
	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
	間賀田 泰寛	浜松医科大学光量子医学研究センター

#### 全国核医学診療実態調査専門委員会

5年毎に全国的な核医学診療実態調査を実施しており、平成19年に実施した「第6回核医学診療実態調査報告書」を取りまとめた。

委員長	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
副委員長	桑原 康雄	福岡大学病院
委員	牛嶋 陽	松下記念病院
	絹谷 清剛	金沢大学医薬保健研究域医学系
	木之村 重男	東北大学加齢医学研究所
	菅 一能	セントヒル病院
	竹岡 啓子	大阪大学医学部附属病院
	武田 徹	筑波大学大学院人間科学研究科
	外山 宏	藤田保健衛生大学医学部
	新尾 泰男	帝京大学ちば総合医療センター
	西山 佳宏	香川大学医学部
	村上 康二	獨協医科大学
	森田 浩一	北海道大学大学院医学研究科

アイソトープ内用療法専門委員会

アイソトープの内用療法を効果的に推進するため、医療安全の確保を図る適正使用のガイドライン等の作成に資する検討を行う。

委員長	遠藤 啓吾	群馬大学大学院医学系研究科
委員	油野 民雄	旭川医科大学
	江口 研二	帝京大学医学部附属病院
	岡本 真一郎	慶應義塾大学医学部
	小椋 美知則	名古屋第二赤十字病院
	絹谷 清剛	金沢大学医薬保健研究域医学系
	日下部きよ子	東京女子医科大学
	久保 敦司	慶應義塾大学医学部
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	飛内 賢正	国立がんセンター中央病院
	成田 浩人	東京慈恵会医科大学附属病院
	細野 眞	近畿大学医学部
	山口 一郎	国立保健医療科学院
	山下 孝	癌研有明病院
	池渕 秀治	(社)日本アイソトープ協会
	中村 吉秀	(社)日本アイソトープ協会

## 2.4 放射線取扱主任者部会

### 2.4.1 概要

放射線取扱主任者部会では、放射性同位元素等の安全取扱、管理に関する知識・技術の向上と普及を図り、放射線障害の防止と放射線取扱主任者等の地位向上に寄与するための諸活動を実施しています。

### 2.4.2 第25期放射線取扱主任者部会（任期：平成20年6月～平成22年5月）の構成

本部運営委員会		
部会の代表組織として、部会長、副部会長を補佐し、部務の重要事項について審議し、部会を運営するとともに支部間の連絡調整を行う。		
部会長	斎藤 直	大阪大学ラジオアイソトープ総合センター
副部会長	松田 尚樹	長崎大学先端生命科学研究支援センター
	宮越 順二	弘前大学大学院保健学研究科
本部運営委員	関 興一	北海道大学アイソトープ総合センター
	佐藤 伊佐務	東北大学金属材料研究所
	榊本 和義	高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター
	河野 孝央	核融合科学研究所安全管理センター
	赤木 清	関西医科大学
	山田 雅夫	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
	福德 康雄	鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター
	野村 貴美	東京大学大学院工学系研究科
	伊丹 純	国立がんセンター中央病院

#### 【支部組織】

各支部は、放射線取扱主任者部会規定の目的に則り、統括する地域の部会員を対象に支部活動を行う。

北海道支部委員会		
支部長	関 興一	北海道大学アイソトープ総合センター
委員	伊藤 慎二	北海道薬科大学
	野矢 洋一	北海道大学アイソトープ総合センター
	早川 均	北海道電力(株)
	林 正信	酪農学園大学獣医学科

東北支部委員会		
支部長	佐藤 伊佐務	東北大学金属材料研究所
委員	大槻 勤	東北大学理学部附属原子核理学研究施設
	佐山 洋	弘前大学アイソトープ総合実験室
	十和田 誠	岩手医科大学共同研究部門
	野田 喜美雄	日本原燃(株)

関東支部委員会

支 部 長	榎本 和義	高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター
委 員	浅見 文克	(株)千代田テクノル
	江田 正明	ゼリア新薬工業(株)中央研究所
	奥野 功一	(株)間組技術研究所
	小柳 充	新潟大学農学部
	加藤 真介	横浜薬科大学放射線科学研究室
	金子 実	東京理科大学環境保全センター
	鈴木 崇彦	東京大学大学院医学系研究科
	土井 妙子	(独)国立環境研究所
	富田 悟	東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター
	松本 義久	東京工業大学原子炉工学研究所
	山田 孝一	アロカ(株)

中部支部委員会

支 部 長	河野 孝央	核融合科学研究所安全管理センター
委 員	安達 興一	名古屋大学医学部アイソトープセンター
	石原 正司	名古屋市立大学大学院医学研究科
	緒方 良至	名古屋大学医学部保健学科
	杉本 勇二	(株)イング名古屋支店
	西 泰明	三重大学生命科学研究支援センター
	日比 章五	(株)豊田中央研究所
	和田 真由美	福井大学総合実験支援センター

近畿支部委員会

支 部 長	赤木 清	関西医科大学
委 員	稲垣 昌代	近畿大学原子力研究所
	大河原 賢一	塩野義製薬(株)
	垣下 典永	近畿大学ライフサイエンス研究所
	釜田 敏光	ポニー工業(株)
	川本 卓男	京都大学放射性同位元素総合センター
	杉村 幸治	日本メジフィジックス(株)
	豊田 亘博	(財)原子力安全技術センター
	村田 保	京都薬科大学R Iセンター
	安岡 由美	神戸薬科大学放射線管理室

中国・四国支部委員会

支 部 長	山田 雅夫	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
委 員	岩堀 淳一郎	高知大学医学部
	小野 俊朗	岡山大学自然生命科学研究支援センター
	北川 和英	広島大学原爆放射線医科学研究所
	鈴木 孝夫	鳥取大学生命機能研究支援センター



### 九州支部委員会

支部長	福德 康雄	鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター
委員	馬田 敏幸	産業医科大学アイソトープ研究センター
	萱野 信二	(株)千代田テクノル福岡営業所
	後藤 稔男	宮崎大学フロンティア科学実験総合センター
	百島 則幸	九州大学アイソトープ総合センター

### 【本部組織】

#### 企画委員会

部会の根幹を支え部会の事業および組織全般に関して、企画立案し、審議・推進する。

委員長	宮越 順二	弘前大学大学院保健学研究科
委員	飯本 武志	東京大学環境安全本部
	大倉 一枝	北海道医療大学薬学部
	庄司 美樹	富山大学生命科学先端研究センター
	杉原 真司	九州大学アイソトープ総合センター
	高淵 雅廣	大阪医科大学研究機構
	滝 劍朗	(独)理化学研究所横浜研究所
	中島 覚	広島大学自然科学研究支援開発センター
	山下 順助	秋田大学医学部R Iセンター
	横田 繁昭	東海大学放射線管理センター

#### 広報委員会

部会員相互のコミュニケーションと外部への広報活動を行い、部会員の資質向上と部会の地位向上に寄与する。

委員長	松田 尚樹	長崎大学先導生命科学研究支援センター
委員	井上 浩義	慶應義塾大学医学部
	大登 邦充	(株)千代田テクノル
	小野 孝二	大分県立三重病院
	桧垣 正吾	東京大学アイソトープ総合センター
	古田 悦子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
	松田 陽介	新潟脳外科病院
	矢鋪 祐司	日本たばこ産業(株) 医薬総合研究所

#### 法令検討委員会

放射線取扱主任者の立場から、法令に係る検討を行い、意見具申案を作成する。

委員長	野村 貴美	東京大学大学院工学系研究科
委員	落合 節夫	(株)千代田テクノル
	杉浦 紳之	近畿大学原子力研究所
	中西 正一	三菱電機(株)電力システム製作所
	山本 英明	(独)日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
	渡辺 雄三	順天堂大学大学院医学研究科

## 2.5 その他の委員会

### Isotope News編集委員会

Isotope Newsを編集、刊行する。

委員長	柴田 徳思	(独)日本原子力研究開発機構 (任期：平成20年12月まで)
	小島 周二	東京理科大学 薬学部 (任期：平成21年1月から)
委員	海老原 充	首都大学東京 大学院理工学研究科 (任期：平成20年12月まで)
	岡田 淳一	成田赤十字病院 放射線科
	高橋 浩之	東京大学大学院 工学系研究科 (任期：平成21年1月から)
	小島 周二	東京理科大学 薬学部 (任期：平成20年12月まで)
	福喜多 博義	国立国際医療センター国府台病院 放射線診療部
	古田 悦子	お茶の水女子大学大学院 (任期：平成21年1月から)
	村松 康行	学習院大学 理学部 (任期：平成21年1月から)
	山口 一郎	国立保健医療科学院 生活環境部 (任期：平成20年12月まで)
	吉永 信治	(独)放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター

### RADIOISOTOPES編集委員会

RADIOISOTOPESを編集、刊行する。

委員長	富田 功	お茶の水女子大学名誉教授 (任期：平成20年12月まで)
	柴田 徳思	(独)日本原子力研究開発機構 (任期：平成21年1月から)
副委員長	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
委員	今泉 洋	新潟大学自然科学系 (工学部)
	宇野 公一	順天堂大学客員教授
	海老原 充	首都大学東京 大学院理工学研究科 (任期：平成21年1月から)
	小須田 茂	防衛医科大学校 放射線医学講座
	小林 慶規	(独)産業技術総合研究所
	杉浦 紳之	近畿大学原子力研究所
	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
	野口 正安	(財)日本分析センター (任期：平成20年12月まで)

### 出版企画委員会

アイソトープ、放射線等の利用と安全管理に関する各種の参考図書、視聴覚教材の編集、刊行について、企画、調整を行う。

(改組中)

ICRP勧告翻訳検討委員会

国際放射線防護委員会の諸勧告の日本語版の翻訳・刊行に係る検討を行う。

委員長	松平 寛通	(財)放射線影響協会顧問
副委員長	濱田 達二	(社)日本アイソトープ協会
委員	石博 信人	名古屋大学医学部
	甲斐 倫明	大分県立看護科学大学
	金子 正人	(財)放射線影響協会
	草間 朋子	大分県立看護科学大学
	酒井 一夫	(独)放射線医学総合研究所
	佐々木 康人	(社)日本アイソトープ協会
	丹羽 太貫	(独)放射線医学総合研究所
	吉田 真	(独)日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
	米倉 義晴	(独)放射線医学総合研究所

講習会企画委員会

各講習会を企画、実施する。

委員長	井戸 達雄	(社)日本アイソトープ協会
委員	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
	井尻 憲一	東京大学アイソトープ総合センター
	片田 元己	首都大学東京大学院理工学研究科
	瀧上 誠	元東京慈恵会医科大学
	小島 周二	東京理科大学薬学部
	上叢 義朋	(独)理化学研究所

NMCC共同利用委員会 (任期：平成20年10月～平成22年9月)

NMCCの全国共同利用を円滑に推進する。

委員長	小川 彰	岩手医科大学
委員	石井 慶造	東北大学大学院工学研究科
	石川 和克	岩手県立大学看護学部
	伊藤 伸彦	北里大学獣医学部
	岩田 錬	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター
	江原 茂	岩手医科大学医学部
	織原 彦之丞	東北工業大学共通教育センター
	小豆嶋 正典	岩手医科大学歯学部
	寺山 靖夫	岩手医科大学医学部
	野坂 洋一郎	岩手医科大学歯学部
	佐々木 康人	(社)日本アイソトープ協会

## 2.6 講演会・見学会等

### 2.6.1 理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会

月・日	会場、場所	演題、見学施設等	主催
4・12	日本アイソトープ協会	講習会 第2回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会 1 放射線安全管理－法令、届出事項及び退出基準について 2 臨床応用 3 読影・判定について 4 放射線安全管理－放射線測定及び放射性廃棄物の安全管理について 5 放射線安全管理－内用療法用放射性医薬品の安全管理 6 教育訓練－管理区域の入退室について 7 実習： <sup>90</sup> Y-イブリツモマブ チウキセタンの標識調製法、標識率の確認、放射性廃棄物の処理方法等について	医
4・19	TKP御茶ノ水ビジネスセンター	講習会 第3回 有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム-89治療安全取扱講習会 1 放射線安全管理 (1)内用療法用放射性医薬品の安全管理 2 放射線安全管理 (2)法令、届出事項及び退出基準について 3 放射線安全管理 (3)放射線測定と放射性廃棄物の安全管理 4 臨床応用	医
5・17	日本アイソトープ協会	講習会 第3回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会  内容は第2回（4・12開催）に同じ	医
5・24	大阪会館	講習会 第4回 有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム-89治療安全取扱講習会  内容は第3回（4・19開催）に同じ	医
7・3	日本青年館	インフォーマルミーティング（理工学部会連絡会） 1 部会活動報告 (1)理工学部会の活動について (2)専門委員会報告 ・放射線防護機器専門委員会報告 ・超低レベル放射能測定専門委員会 ・中性子イメージング専門委員会 2 講演 「仁科・木村博士の <sup>237</sup> U, <sup>237</sup> Npの研究とその後の話」 池田 長生氏（筑波大学名誉教授）	理

月・日	会場、場所	演題、見学施設等	主催
8・3 ～8・5	成蹊学園箱根寮	平成20年度サマースクール — R I ・放射線の利用— 「放射線の医学分野への応用—診断・治療—」 1 小動物SPECT/CTカメラを用いたがん病巣内生理機能局在の 高分解能 <i>in vivo</i> イメージング 2 陽子線治療における原子核破砕反応を利用した体内照射領域 の可視化 3 放射線の生体影響の分子機構—酸化ストレスと生体の適応 応答— 4 小線量 $\gamma$ 線による免疫細胞の制御と自己免疫疾患治療への 応用 「R I ・放射線利用の新技术」 5 放射能標準 6 CdTe半導体エネルギー弁別型ラインセンサーを用いた R I ・ イメージング 7 超伝導放射線センサーを用いた超高分解能エネルギー測定・ —基礎から応用まで— 「特別講義」 同位体年代測定で探る元寇船建造地と天正地震の謎 「R I ・放射線利用の現状と展望」 8 核不拡散のための環境中の放射性核種の分析と測定・ —基礎から最新技術まで— 9 放射線プロセス—研究開発から工程管理まで— 10 P I X Eの基礎と最新技術	理 ラ
9・20	ベルサール神田	講習会 第5回 有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム-89 治療安全取扱講習会  内容は第3回（4・19開催）に同じ	医
9・27	東京電力(株)柏 崎刈羽原子力発 電所	R & I 見学会 見学：原子力発電所7号機、6号機、解析室、環境棟	理
10・18	日本アイソト ープ協会	講習会 第4回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の 安全取扱講習会  内容は第2回（4・12開催）に同じ	医
11・22	日本アイソト ープ協会	講習会 第5回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の 安全取扱講習会  内容は第2回（4・12開催）に同じ	医

月・日	会場、場所	演題、見学施設等	主催
11・29	ホテル大阪ベイタワー	講習会 第6回 有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム-89治療安全取扱講習会  内容は第3回（4・19開催）に同じ	医
12・5	国際研究交流会館（国立がんセンター内）	講習会 第11回 高線量率ラルス医療安全取扱講習会 1 医療安全とヒューマンファクター 2 ICRP97—HDR小線源治療事故の防止— 3 HDR <sup>192</sup> Irラルス（マイクロセレクトロン）の保守契約の内容及びQA項目 4 <sup>60</sup> Co・ <sup>192</sup> Ir線源選択型ラルス（マルチソース）の特徴と安全取扱 5 治療用密封線源供給の現状について 6 子宮頸がんについて 7 癌研有明病院における腔内照射と組織内照射の安全確認方法について 8 前立腺癌組織内照射治療の現状 9 放射線技師の立場から 10 子宮がん腔内照射におけるケア～看護師の立場から 11 わが国の小線源治療の現状；実態調査にもとづいた報告	医
1・24	日本アイソトープ協会	講習会 第6回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会  内容は第2回（4・12開催）に同じ	医
2・7	航空会館	講習会 第12回 ヨウ素125シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療の安全取扱講習会 1 永久挿入療法開始まで 2 線源管理の実際 3 永久挿入療法のあれこれ 4 退出基準とガイドラインの解説 5 早期死亡時の対応マニュアルの解説 6 治療技術 7 看護の実際 8 線源配置と線量評価 9 前立腺がん検診ガイドラインの解説	医
2・21	日本アイソトープ協会	講習会 第7回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会  内容は第2回（4・12開催）に同じ	医

月・日	会場、場所	演題、見学施設等	主催
3・13	(独)国立環境研究所	<p>アイソトープ利用講演・見学会</p> <p>見学：地球環境研究センター            タンデム加速器分析施設、核磁気共鳴断層撮像装置            アイソトープ施設</p> <p>講演：化学トレーサーによる地球物質循環理解が世界の気候政策を動かす</p>	ラ
3・16	(財)癌研究会	<p>R &amp; I 見学会</p> <p>見学：有明病院（放射線治療施設、核医学(PET)施設）            研究所（アイソトープ施設）</p> <p>講演：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 癌研究会における核医学診療について</li> <li>2 癌研究会における先進放射線治療について</li> <li>3 癌研究会における医学物理について</li> </ol>	理

## 2.6.2 放射線取扱主任者部会

### (1) 平成20年度主任者部会年次大会（第49回放射線管理研修会）

月・日	会場、場所	演題等
11・13 ～14	中電ホール	部会総会 部会の活動報告・活動計画 特別講演1（文部科学省） 放射線安全行政について 特別講演2 ものづくり現場改善の真髄とはーJコスト論 特別講演3 間もなく稼働開始『J-PARC』が生み出す 大強度中性子ビームー最先端の産業研究開発への活用 特別講演4 放射線取扱主任者部会創立50周年から100周年に向かって セッション1 放射線施設のセキュリティと安全管理 セッション2 廃棄物処理の将来とクリアランス セッション3 RI・放射線の利用と発展的未来 ポスター発表 30題 分科会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・PET施設管理研究会</li> <li>・教育訓練問題検討分科会</li> <li>・選任主任者分科会</li> <li>・放射線計測分科会</li> <li>・立入検査分科会</li> </ul>

### (2) 研修会、勉強会及び法定の教育訓練講習会等

#### ○北海道支部

月・日	会場、場所	演題等
4・28	北海道大学百年 記念会館	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
6・7	北海道大学大学 院工学研究科	平成20年度原子力オープンスクール（日本原子力学会北海道支部 と共催）
11・7	北海道電力 （株）泊発電所	見学会
2・6	北海道大学百年 記念会館	講演会（北海道大学アイソトープ総合センターと共催）

#### ○東北支部

月・日	会場、場所	演題等
5・23	みやぎ婦人会館	教育訓練講習会（新規教育・再教育）（東北放射線科学センター と共催）
3・16	宮城県民会館	放射線管理実務セミナー（東北放射線科学センター、大学等放射 線施設協議会と共催）

#### ○関東支部

月・日	会場、場所	演題等
4・16	自動車会館	教育訓練講習会ーラジオアイソトープの安全取扱Ⅰ（新規教育）
5・14	自動車会館	教育訓練講習会ーラジオアイソトープの安全取扱Ⅱ（新規教育）
5・27	自動車会館	教育訓練講習会ーラジオアイソトープの安全取扱Ⅲ（再教育）
5・19	自動車会館	教育訓練講習会ー密封線源・認証機器の安全取扱（新規教育・再教育）
10・1	自動車会館	教育訓練講習会ーラジオアイソトープの安全取扱Ⅳ（新規教育）
10・6	自動車会館	教育訓練講習会ーラジオアイソトープの安全取扱Ⅴ（再教育）



○中部支部

月・日	会場、場所	演題等
5・9	名古屋商工会議所	第20回教育訓練講習会（新規教育・再教育）（中部原子力懇談会と共催）
9・12	名古屋大学医学部保健学科R I 実験室	見学会・第25回支部交流会
1・30	東桜会館	研修会・第26回支部交流会

○近畿支部

月・日	会場、場所	演題等
5・16	新梅田研修センター	教育訓練講習会 I（新規教育・再教育）
10・31	京都大学放射性同位元素総合センター	教育訓練講習会 II（新規教育・再教育）

○中国・四国支部

月・日	会場、場所	演題等
5・9	広島大学廣仁会館	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
10・9	岡山大学創立五十周年記念館	第15回中国・四国支部主任者研修会・情報交換会

○九州支部

月・日	会場、場所	演題等
5・9	福岡リーセントホテル	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
10・31	宮崎大学医学部総合教育研究棟	第15回九州支部主任者研修会・交流会

(3) 講師派遣

39事業所等からの依頼を受けて法定教育訓練の講師を派遣した。

### 2.6.3 NMCC共同利用委員会

#### 第14回NMCC共同利用研究成果発表会

会 期	平成20年5月16日～17日
会 場	岩手医科大学附属循環器医療センター
招待講演(1)	「空間分解能1mmを切る半導体PETの開発」 山崎浩道（東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター）
招待講演(2)	「日本におけるPET化学の発展の歴史」 岩田 錬（東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター）
発表演題	34件（PET：5件、PIXE：25件、特別共同利用・薬剤・基礎：4件）
参加者	82名
報 文 集	NMCC共同利用研究成果報文集14(2006-2007) CD-ROM版 平成21年3月発行

### 3. 第45回アイソトープ・放射線研究発表会

会 期	平成20年 7月 2日～ 4日
会 場	日本青年館
主 催	日本アイソトープ協会
共催学協会	61学・協会
特別講演	・「次世代半導体への展望—22nmリソグラフィ技術の現状と将来—」 ・「放射線・アイソトープを利用した非破壊検査技術の現状と動向」 ・“The Curie Family and Some Relations between France and Japan” ・「ここまで進んだRI内用療法—今後の展望をふまえて—」
パネル討論	・「新しいRIの利用促進を目指して」 ・「新しい中性子イメージングの応用と展望」 ・「管理区域外での「下限数量以下の非密封RI」使用の実際」 ・「放射線教育の新展開と社会的コミュニケーション」
研究発表件数	157件（口頭発表：132件、ポスター発表：25件）
要 旨 集	第45回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集
参加登録者数	504名

(第45回アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会)

### 4. CJK Congress (中・日・韓アイソトープ協会会議)

6th ICI (International Conference on Isotopes) に協賛し、「CJK Congress Asian-Pacific Forum for RI Utilization」及びCJK三者会議（中国アイソトープ・放射線協会、日本アイソトープ協会、韓国アイソトープ協会）を開催

会 期	平成20年 5月14日
会 場	Sheraton Grande Walkerhill Hotel (Seoul)
日本側参加者	17名

テクニカルツアー

5月15日	Advanced Radiation Technology Institute National Fusion Research Institute
-------	-------------------------------------------------------------------------------

## 5. 講習会

### 5.1 文部科学省・厚生労働省登録講習

#### 5.1.1 第1種放射線取扱主任者講習

回	会 期	受講者数	修了者数
第288回	平成20年 4月 7日 ～ 4月11日	32名	32名
第289回	平成20年 4月21日 ～ 4月25日	31名	31名
第290回	平成20年 6月23日 ～ 6月27日	32名	32名
第291回	平成20年 7月 7日 ～ 7月11日	32名	32名
第292回	平成20年10月 6日 ～ 10月10日	29名	28名
第293回	平成20年10月27日 ～ 10月31日	24名	24名
第294回	平成20年11月17日 ～ 11月21日	32名	32名
第295回	平成20年12月 1日 ～ 12月 5日	32名	32名
第296回	平成20年12月15日 ～ 12月19日	32名	32名
第297回	平成21年 1月19日 ～ 1月23日	32名	32名
第298回	平成21年 2月 2日 ～ 2月 6日	31名	31名
第299回	平成21年 2月16日 ～ 2月20日	32名	32名
第300回	平成21年 3月 2日 ～ 3月 6日	32名	32名

備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第35条第2項に定める講習

対象 第1種放射線取扱主任者試験合格者で18歳以上の者

講習内容 (1) 放射線の基本的な安全管理に関する課目  
(2) 放射性同位元素及び放射性同位元素によって汚染された物並びに放射線発生装置の取扱いの実務に関する課目  
(3) 使用施設等及び廃棄物詰替施設の安全管理の実務に関する課目  
(4) 放射線の量及び放射性同位元素による汚染の状況の測定の実務に関する課目  
(5) 修了試験

会 場 協会会議室及び実習室

#### 5.1.2 第3種放射線取扱主任者講習

回	会 期	受講者数	修了者数
第6回	平成20年 9月18日 ～ 9月19日	31名	31名
第7回	平成21年 3月16日 ～ 3月17日	28名	28名

備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第35条第4項に定める講習

対象 18歳以上の者

講習内容 (1) 法に関する課目  
(2) 放射線及び放射性同位元素の概論  
(3) 放射線の人体に与える影響に関する課目  
(4) 放射線の基本的な安全管理に関する課目  
(5) 放射線の量の測定及びその実務に関する課目  
(6) 修了試験

会 場 協会会議室及び実習室

### 5.1.3 放射線取扱主任者定期講習

回	開催地	開催日	受講者数	修了者数
使0801回	日本アイソトープ協会 (東京都文京区)	平成20年6月20日	31名	31名
販0801回			3名	3名
使0802回	日本アイソトープ協会 (東京都文京区)	平成20年8月20日	31名	31名
販0802回			3名	3名
使0803回	大阪大学コンベンション センター (大阪府吹田市)	平成20年9月30日	25名	25名
販0803回			1名	1名
使0804回	国際ファッションセンター ビル (東京都墨田区)	平成20年10月9日	51名	51名
販0804回			3名	3名
使0805回	北海道大学アイソトープ総合 センター (北海道札幌市)	平成20年10月24日	21名	21名
販0805回			0名	0名
使0806回	東桜会館 (愛知県名古屋市中区)	平成20年11月12日	32名	32名
販0806回			4名	4名
使0807回	飯田橋レインボービル (東京都新宿区)	平成20年12月9日	54名	54名
販0807回			5名	5名
使0808回	飯田橋レインボービル (東京都新宿区)	平成21年1月15日	46名	46名
販0808回			4名	4名
使0809回	広仁会館 (広島県広島市)	平成21年1月23日	18名	18名
販0809回			0名	0名
使0810回	文部科学省研究交流センター (茨城県つくば市)	平成21年2月6日	22名	22名
販0810回			0名	0名
使0811回	仙台市情報・産業プラザ (宮城県仙台市)	平成21年2月13日	22名	22名
販0811回			0名	0名
使0812回	東桜会館 (愛知県名古屋市中区)	平成21年2月20日	35名	35名
販0812回			0名	0名
使0813回	福岡リーセントホテル (福岡県福岡市)	平成21年3月5日	34名	34名
販0813回			0名	0名
使0814回	大阪大学中之島センター (大阪府大阪市)	平成21年3月13日	48名	48名
販0814回			0名	0名
使0815回	国際ファッションセンター ビル (東京都墨田区)	平成21年3月24日	34名	34名
販0815回			0名	0名

備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第36条の2に定める講習

対象 (1) 下記事業所等の選任された放射線取扱主任者  
・許可届出使用者  
・届出販売業者、届出賃貸業者（表示付認証機器のみを販売又は賃貸する者及び放射性同位元素等の運搬及び運搬の委託を行わない者を除く）  
(2) 選任された放射線取扱主任者以外の者で本講習の受講を希望する者

講習内容 (1) 法に関する課目  
(2) 放射性同位元素等の事故の事例に関する課目  
(3) 放射性同位元素等の取扱いに関する課目  
(4) 使用施設等の安全管理に関する課目

会場 上記の内、講習種別によって必要な課目を受講  
東京、大阪及び全国の各都市

5.1.4 第一種作業環境測定士（放射性物質）講習（厚生労働省登録）

回	会 期	受講者数	修了者数
第88回	平成20年 5月29日～ 5月30日	34名	33名
第89回	平成20年 9月24日～ 9月25日	11名	11名
第90回	平成21年 1月 8日～ 1月 9日	36名	36名

備考：目的 「作業環境測定士法」第5条に定める講習  
 対象 第一種作業環境測定士試験合格者又は作業環境測定士法第14条第3項により試験の全科目免除者  
 講習内容 (1) 放射性物質取扱作業室の作業環境について行う分析の実務  
 会 場 協会会議室及び実習室

5.2 その他講習会

5.2.1 アイソトープ基礎技術入門講習会

回	会 期	受講者数	修了者数
第77回	平成20年 5月12日～ 5月16日	17名	17名

備考：目的 非密封アイソトープの安全取扱いにおいて必要な基礎入門的な知識及び実習を通じて安全取扱いの基本の習得  
 対象 特に新人教育向け  
 講習内容 講義：アイソトープの物理、化学、放射線管理測定技術、放射線障害防止法など  
 実習：測定実習、化学実習、生化学実習  
 会 場 協会会議室及び実習室

5.2.2 ラジオアイソトープ安全取扱講習会

回	会 期	受講者数
第37回	平成20年 6月 9日～ 6月13日	41名

備考：目的 非密封ラジオアイソトープを安全に取扱うために必要な知識の習得  
 対象 非密封ラジオアイソトープ取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者  
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害防止法  
 会 場 協会会議室

5.2.3 密封線源安全取扱講習会

回	会 期	受講者数
第50回	平成20年 6月 2日～ 6月 5日	40名

備考：目的 密封線源を安全に取扱うために必要な知識の習得。  
 対象 密封線源取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者  
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害防止法  
 会 場 協会会議室

#### 5.2.4 第1種主任者育成講習会

回	会 期	受講者数
第14回	平成20年 7月28日～ 7月30日	42名

備考： 目 的 第1種放射線取扱主任者として要求されている知識の整理とまとめ  
 対 象 非密封ラジオアイソトープ取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、  
 技術者  
 講習内容 物理学、化学、生物学、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害  
 防止法  
 会 場 協会会議室

#### 5.2.5 第2種主任者育成講習会

回	会 期	受講者数
第14回	平成20年 7月24日～ 7月25日	42名

備考： 目 的 第2種放射線取扱主任者として要求されている知識の整理とまとめ  
 対 象 密封線源取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者  
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害防止法  
 会 場 協会会議室

#### 5.2.6 アイソトープ土曜講座

回	会 期	受講者数
第2回 (法令)	平成20年 6月 7日	17名
第2回 (化学)	平成20年 6月14日	23名
第2回 (物理)	平成20年 6月21日	25名
第2回 (生物)	平成19年 6月30日	19名
第2回 (測定)	平成20年 7月 5日	22名
第2回 (管理)	平成20年 7月12日	19名

備考： 目 的 非密封ラジオアイソトープを安全に取扱うために必要な知識の習得  
 対 象 非密封ラジオアイソトープ取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、  
 技術者  
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害防止法  
 会 場 協会会議室

### 5.3 放射線滅菌等に関する研修

目 的 放射線滅菌等に関する微生物の取扱技術の習得  
対 象 医療機器の滅菌に関する微生物試験の技術者

#### 5.3.1 微生物取扱技術基本コース

コース名	会 期	受講者数
微生物取扱基礎技術 (G1)	平成20年 5月19日～ 5月23日	1名
微生物取扱基礎技術 (G1)	平成20年10月27日～10月31日	1名

## 6. 図書等の発行

### 6.1 機関誌

6.1.1 Isotope News (広報誌) (No. 648~659) (Isotope News 編集委員会)

6.1.2 RADIOISOTOPES (学術誌) (Vol. 57 No. 4~Vol. 58 No. 3) (RADIOISOTOPES 編集委員会)

#### 総説一覧

巻(号)	年 月	表 題	著 者
57(11)	08・11	鉛同位体比法の応用—歴史資料の産地推定—	平尾良光
57(12)	08・12	ストロンチウム-89による骨転移の除痛治療	小泉 潔
58( 3)	09・ 3	RIを用いたマイクロドーズ臨床試験とその創薬実用化への展望	矢野恒夫, 渡辺恭良
57( 9)	08・ 9	“安定同位体利用技術” 二次元高分解能二次イオン質量分析計 (NanoSIMS) を用いた鉛とストロンチウム同位体測定	佐野有司

#### 講座一覧

巻(号)	年 月	表 題	著 者
57( 4)	08・ 4	“加速器施設における放射線管理” I. J-PARCにおける放射線安全対策とその管理	中島 宏, 宮本幸博
57( 4)	08・ 4	II. 理研RIビームファクトリーの放射線管理	上菘義朋
57( 5)	08・ 5	III. Spring-8における放射線管理	浅野芳裕
58( 2)	09・ 2	“医療用PET薬剤” 連載に当たって	佐々木康人
58( 2)	09・ 2	日本アイソトープ協会医学・薬学部サイクロトロン核医学 利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤について の現在までの経緯	鳥塚莞爾, 米倉義晴
58( 2)	09・ 2	[ <sup>15</sup> O]酸素ガスおよび[ <sup>18</sup> F]FDGのPET検査の保険適用について	鳥塚莞爾
58( 3)	09・ 3	薬剤合成品質管理	佐治英郎

#### 連載講座一覧

巻(号)	年 月	表 題	著 者
57( 4)	08・ 4	“中性子イメージングの基礎と応用” (基礎編第1 2回) 中性子イメージングの最新技術-2	川端祐司
57( 5)	08・ 5	(応用編第1 2回) 国内外の中性子イメージング設備	松林政仁
57( 5)	08・ 5	(最終回) 終章—中性子ラジオグラフィから中性子イメージ ングへ	小林久夫

### 6.2 出版物等

- ① Visual Learning Introduction to the Law Concerning Prevention of Radiation Hazards  
(「見て納得 放射線障害防止法入門」の英語版DVD) DVD判 1枚組 119,700円
- ② 改訂版 放射線管理実務マニュアル A4判 411ページ 7,560円
- ③ <sup>18</sup>F-FDGを用いたPET診療における医療放射線管理の実践マニュアル A4判 359ページ 4,200円
- ④ ICRP Publ. 97 高線量率(HDR)小線源治療事故の予防 B5判 46ページ 3,045円
- ⑤ 改訂8版 放射線障害の防止に関する法令 概説と要点 A5判 171ページ 1,575円
- ⑥ 第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例 [第50回] B5判 28ページ 493円
- ⑦ 第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例 [第53回] B5判 64ページ 724円



## 7. 受託研究等

### 7.1 受託試験

#### 7.1.1 放射線照射

医療機器バリデーションのための監査線量照射及び分布試験照射を55件実施した。

#### 7.1.2 微生物試験

医療機器等の滅菌バリデーションに関する微生物試験を187件実施した。

## 8. 共同利用

### 8.1 仁科記念サイクロトロンセンター共同利用

		研究課題 (件)	割当回数 (回)	利用実績 (回)	備考
前 期	PET	6	56	50	検査数 52
	PIXE	24	135	144	
	薬剤合成他	1	6	11	
	合 計	31	197	205	
後 期	PET	6	55	69	検査数 74
	PIXE	26	135	167	
	薬剤合成他	1	6	6	
	合 計	33	196	242	
年度合計		64	393	447	

### 8.2 甲賀研究所放射線照射施設共同利用

共同利用照射サービスを9課題、34件実施した。

## 9. 普及・啓発

### 9.1 第12回（2008年）RADIOISOTOPES誌論文奨励賞

受賞者 11名（11論文）

### 9.2 仁科記念シンポジウム「アイソトープ科学の最前線ー核物理から核医学までー」

日 時 7月1日（火） 14:00～16:30

参加者 123名

主催 理化学研究所、日本アイソトープ協会

後援 仁科記念財団

参加費 無料

会場 新生銀行本店ホール（東京都千代田区内幸町2-1-8）

司 会 井戸達雄（日本アイソトープ協会常務理事）

1) 挨拶（10分）14:00～14:10 山崎敏光（仁科記念財団理事長）

2) 仁科芳雄博士と我が国初のサイクロトロン（45分）14:00～14:55  
中根良平（理化学研究所名誉相談役）

3) RIビームファクトリーの始動（45分）14:55～15:40  
矢野安重（理化学研究所仁科加速器研究センター長）

4) 分子イメージングによる核医学診断（45分）15:40～16:25  
米倉義晴（放射線医学総合研究所理事長）

5) 挨拶（5分）16:25～16:30 田畑米穂（日本アイソトープ協会副会長）

### 9.3 アイソトープの利用促進

アイソトープ利用の減少傾向に対処するため平成19年度に設置された「新しいアイソトープの利用等に関する作業グループ」では、利用促進に関する問題点と、その解決に向けた方策・提案について検討を行った。

### 9.4 滝沢研究所

#### 9.4.1 第18回滝沢研究所施設公開

日 時 9月7日（日） 10:00～14:00

イベント 施設見学会、講演会、健康相談等

参加者 約600名

#### 9.4.2 武見記念館

展示内容 現代医学展示

身のまわりのアイソトープ・放射線展示

人工臓器ロボット

武見太郎先生日本医師会会長在職中備品

開館時間 10:00～16:00

（土・日・祝祭日、創立記念日（5月1日）、年末年始（12月29日～1月4日）を除く）

来館者数 435名

## 9.5 甲賀研究所

### 9.5.1 施設見学

年間を通じ、放射線滅菌時の技術相談や工場見学等で55名の施設見学があった。

## 9.6 第49回「科学技術週間」施設公開

日 時 4月14日(月)～4月18日(金)

茅記念滝沢研究所(医療RI廃棄物処理施設)

仁科記念サイクロトロンセンター(サイクロトロン、PET、PIXEなどの施設)

武見記念館(現代医学およびRI利用に関する展示)

甲賀研究所( $^{60}\text{Co}$   $\gamma$ 線照射施設)

10. 図書室の活動

10.1 新規収蔵図書

図 書 名	出 版 元
2版 放射線安全管理の実際	(社)日本アイソトープ協会
4版 密封線源の基礎 【第2種・第3種放射線取扱主任者のために】	(社)日本アイソトープ協会
5版 放射線取扱の基礎【第1種放射線取扱主任者試験の要点】	(社)日本アイソトープ協会
Annals of the ICRP ICRP Publication 103 The 2007 Recommendations of the International Commission on Radiological Protection	ELSEVIER
BASIC KNOWLEDGE OF RADIATION AND RADIOISOTOPES (Scientific Basis, Safe Handling of Radioisotopes and Radiation Protection)	(社)日本アイソトープ協会
Catch Up 大学の化学講義-高校化学とのかけはし-	裳華房
NCRP REPORT No. 157 Radiation Protection in Educational Institutions	NCRP
お母さんのための放射線防護知識 チェルノブイリ事故 20年間の調査でわかったこと	医療科学社
チェックポイント X線撮影と画像評価	医療科学社
やっぱり原子力	(社)日本電気協会新聞部
医学物理用語集 2007	日本医学物理学会
医療放射線防護の常識・非常識 ～医療現場の声から世界の流れまで～	インナービジョン
改訂「診療画像検査法」医用放射線計測学	医療科学社
核と放射線の物理 放射線医学と防護のための基礎科学	医療科学社
食品照射Q&Aハンドブック	(社)日本原子力産業協会
第52回第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例 第52回 平成19年8月22日, 23日実施	(社)日本アイソトープ協会
知っていますか? 医療と放射線 放射線の基礎から最先端の重粒子線治療まで	丸善
超実践マニュアル CT	医療科学社
超実践マニュアル RI	医療科学社

図 書 名	出 版 元
日本の疫学・ 放射線の健康影響研究の歴史と教訓	医療科学社
放射線・アイソトープを取り扱う前に-教育訓練テキスト-	(社)日本アイソトープ協会
放射線と現代生活・ マリー・キュリーの夢を求めて	ERC出版
放射線医科学・ -生体と放射線・電磁波・超音波-	学会出版センター
放射線入門	通商産業研究社
放射線利用の基礎知識・ 半導体、強化タイヤから品種改良、食品照射まで	講談社
産総研dex【2008】	(独)産業技術総合研究所
第1種放射線取扱主任者試験 課目別問題集	(社)日本アイソトープ協会
COSMIC RAY TABLES・ No.1 Asymptotic Directions in 1975	World Data Center C2 for Cosmic Rays
Cosmic-Ray Intensity・ No.31 Graphs of Hourly Neutron Intensities during 1980-1981	National Committee for Scientific Committee on Solar-Terrestrial Physics
DISPOSAL OF RADIOACTIVE WASTE	IAEA
Engineering Compendium on Radiation Shielding・ volume II Shielding Materials	Springer-Verlag
Engineering Compendium on Radiation Shielding・ volume III Shield Design and Engineering	Springer-Verlag
INDUCED RADIOACTIVITY	NORTH-HOLLAND PUBLISHING Co.
International Series of Monographs on Nuclear Energy・RADIATION SHIELDING	PERGAMON
NCRP Commentary No. 20 Radiation Protection and Measurement Issues Related to Cargo Scanning With Accelerator-Produced High- Energy X Rays	NCRP
TECHNICAL REPORTS SERIES No.156・ Handbook on Nuclear Activation Cross-Sections	IAEA
マリーキュリー・ フラスコの中の闇と光	WAVE出版
人の命を衛った130年・ 私家版 衛生試験所の歴史研究	
仁科芳雄往復書簡集・現代物理学の開拓 III・ 大サイクロトロン・二号研究・戦後の再出発 1940-1951	みすず書房

図 書 名	出 版 元
仁科芳雄往復書簡集・現代物理学の開拓 I・ コペンハーゲン時代と理化学研究所・初期 1919-1935	みすず書房
仁科芳雄往復書簡集・現代物理学の開拓 II・ 宇宙線・小サイクロトロン・中間子 1936-1939	みすず書房
環境放射線モニタリング指針	原子力安全委員会
ICRU REPORT 78 Prescribing, Recording, and Reporting Proton-Beam Therapy	Oxford University Press
Annals of the ICRP・ICRP Publication 104・ Scope of Radiological Protection Control Measures	ELSEVIER
MIRD : RADIONUCLIDE DATA AND DECAY SCHEMES 2nd Edition	The Society of Nuclear Medicine
リーヴィット 宇宙を測る方法	WAVE出版
簡単！家庭でできるおもしろ実験・ タックン博士のエネギー・科学の摩訶不思議	ERC出版
見て体験して物理がわかる実験ガイド・ -演示実験・生徒実験集-	学術図書出版社
大学等における放射線安全管理の要点とQ&A 新 版	アドスリー
核医学施設の行政手続マニュアル・ -放射性医薬品とPETの使用に必要な申請手続き のすべて-	医療放射線防護連絡協議会
ICRU REPORT 79・ Receiver Operating Characteristic Analysis in Medical Imaging	Oxford University Press
原子力施設運転管理年報 平成20年版（平成19年 度実績）	(独)原子力安全基盤機構
植物が語る放射線の表と裏	培風館
18F-FDGを用いたPET診療における医療放射線管理 の実践マニュアル	(社)日本アイソトープ協会
Annals of the ICRP・ICRP Publication 105・ Radiological Protection in Medicine	ELSEVIER
改訂版 放射線管理実務マニュアル	(社)日本アイソトープ協会
Trends in Radiation Sterilization of Health Care Products	IAEA
NCRP REPORT No. 158・ Uncertainties in the Measurement and Dosimetry of External Radiation	NCRP
平成21年版 職員録 上下	(独)国立印刷局

図 書 名	出 版 元
ICRP Publication 97 高線量率 (HDR)小線源治療事故の予防	(社)日本アイソトープ協会
2007年版アイソトープ法令集Ⅲ 労働安全衛生・輸送・その他関係法令	(社)日本アイソトープ協会
改訂版 放射線基礎計測学	医療科学社
虎の巻 低線量放射線と健康影響	医療科学社
放射線安全管理学	医療科学社
放射線生物学	医療科学社
臨床研修医のための画像医学教室・ -脳神経領域	医療科学社
ICRU REPORT 80・ Dosimetry Systems for Use in Radiation Processing	Oxford University Press
第50回第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例 第50回 平成20年8月22日 実施	(社)日本アイソトープ協会
放射線障害の防止に関する法令 概説と要点 (改訂8版)	(社)日本アイソトープ協会
Annals of the ICRP・ICRP Publication 106・ Radiation Dose to Patients from Radiopharmaceuticals	ELSEVIER
高田 純の放射線防護学入門シリーズ・ 医療人のための放射線防護学	医療科学社
高田 純の放射線防護学入門シリーズ・ 核エネルギーと地震・ 中越沖地震の検証、技術と危機管理	医療科学社
高田 純の放射線防護学入門シリーズ・ 中国の核実験・ シルクロードで発生した地表核爆発災害	医療科学社

(受入れ順)

10.2 収蔵定期刊行物

図 書 名	出 版 元
INNERVISION	(株)インナービジョン
THE JOURNAL OF JASTRO	日本放射線腫瘍学会
医用標準線量	医療用標準線量研究会
温泉科学	日本温泉科学会
資源環境対策	(株)環境コミュニケーションズ
食品照射	日本食品照射研究協議会
地球科学	地学団体研究会
日本医学放射線学会会誌	(社)日本医学放射線学会
日本医師会雑誌	(社)日本医師会
保健物理	日本保健物理学会
放射線生物研究	放射線生物研究会
ANNALS OF THE ICRP	ICRP
HEALTH PHYSICS	LIPPINCOTT WILLIAMS & WILKINS
ISOTOPES IN ENVIRONMENTAL AND HEALTH STUDIES	TAYLOR & FRANCIS LTD.
NUCLEAR NEWS	THE AMERICAN NUCLEAR SOCIETY
Science & Technology Journal	(財)科学技術広報財団
学術月報	(独)日本学術振興会
環境と健康	(財)体質研究会
原子力eye	日刊工業新聞社
現代化学	(株)東京化学同人
APPLIED RADIATION AND ISOTOPES	ELSEVIER LTD.
JOURNAL OF LABELLED COMPOUNDS AND RADIOPHARMACEUTICALS	JOHN WILEY & SONS, LTD.
THE JOURNAL OF NUCLEAR MEDICINE	THE SOCIETY OF NUCLEAR MEDICINE, INC.
NUKLEARMEDIZIN	SCHATTAUER GMBH
RADIATION PROTECTION DOSIMETRY	OXFORD UNIVERSITY PRESS
RADIATION RESEARCH	THE RADIATION RESEARCH SOCIETY
RADIOLOGY	THE RADIOLOGICAL SOCIETY OF NORTHAMERICA
SEMINARS IN NUCLEAR MEDICINE	ELSEVIER INC.
THE BRITISH JOURNAL OF RADIOLOGY	THE BRITISH INSTITUTE OF RADIOLOGY
科学新聞	科学新聞社

(上記以外にも数種類の定期刊行物を収蔵しています。)



## 11. 事務局組織

### 学術部

学術課 TEL (03)5395-8081 FAX (03)5395-8053

- ・理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会、放射線取扱主任者部会事務局
- ・アイソトープ・放射線研究発表会事務局
- ・放射線取扱主任者定期講習【文部科学省登録】
- ・共催事務窓口
- ・図書室利用窓口

出版課 TEL (03)5395-8082 FAX (03)5395-8053

- ・RADIOISOTOPES誌の編集・刊行
- ・Isotope News誌の編集・刊行
- ・単行本、ICRP刊行物、ビデオシリーズの編集・刊行
- ・輸送標識の頒布

研修課 TEL (03)5395-8083 FAX (03)5395-8053

- ・第1種放射線取扱主任者講習【文部科学省登録】
- ・第3種放射線取扱主任者講習【文部科学省登録】
- ・第1種作業環境測定士（放射性物質）講習【厚生労働省登録】
- ・アイソトープ基礎技術入門講習
- ・安全取扱・育成講習会・アイソトープ土曜講座
- ・その他講習会の事務窓口

滝沢研究所 TEL (019)688-1811 FAX (019)688-1813

- ・サイクロトロン共同利用（仁科記念サイクロトロンセンター）  
（PIXE分析、PETの利用）
- ・RI利用、医学利用展示（武見記念館）

甲賀研究所 TEL (0748)88-3121 FAX (0748)88-3123

- ・放射線滅菌、放射線改質などの試験照射
- ・滅菌線量監査のための検定線量照射
- ・バリデーションに関する微生物試験
- ・微生物試験技術者の養成・訓練

資 料 部会活動の経過及び成果公表資料

1. 理工学部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
RI装備機器調査専門委員会 〔昭和39年 4月～12月〕	○ 利用状況および問題点のアンケート調査 * 「放射性同位元素装備機器利用状況調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 3(1965)
ラジオグラフィ専門委員会 〔昭和39年 4月～43年 3月〕	○ $\gamma$ 線ラジオグラフィ利用状況アンケート調査 * 「わが国における $\gamma$ 線ラジオグラフィの利用状況」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 1(1965) ○ 感光材料の問題点検討 * 「ラジオグラフィにおける圧力効果による“フィルムむら”について」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 1(1965) ○ ガンマ線ラジオグラフィ検査基準の確立および <sup>192</sup> Ir線源国産化の検討 日本原子力研究所、ラジオグラフィ使用事業所（8社）、照射機メーカー（4社）と数回にわたって試用共同実験 * 以上の成果として、「ガンマ線ラジオグラフィ露出計算尺」作製（昭和41年10月。昭和48年実用新案登録）、「ガンマ線透過撮影法」（昭和43年3月刊行(1968)）
文献専門委員会 〔昭和39年 4月～平成 4年 5月〕	○ 「RI理工学利用文献集」（昭和48年以前は「RI工業利用文献抄録集」）の編集を行い、RADIOISOTOPES誌に毎号、理工文献題目集および理工文献紹介を掲載。
中性子水分計および $\gamma$ 線密度計専門委員会 〔昭和40年 2月～44年 5月〕	○ 水分計、密度計の安定性に関する共同実験（14事業所が参加） * 「中性子水分計およびガンマ線密度計の安定性に関する共同実験結果」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 16, No. 2(1967) ○ 土の密度と含水量測定におけるRI法と在来法の比較共同実験 ○ 中性子水分計およびガンマ線密度測定法マニュアルの検討（未完結）
オートラジオグラフィ専門委員会 〔昭和42年10月～45年 5月〕	○ 金属オートラジオグラフィにおける感光材料の解像力に関する共同実験 * 「理工学におけるオートラジオグラフィの最近の研究」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 19, No. 1(1970) * 「放射性銀試験体を用いたマイクロオートラジオグラフィの分解能に関する研究」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 19, No. 11(1970)
線源専門委員会 〔昭和43年 5月～44年 3月〕	○ 各種密封線源について利用開発上の問題点、検査法等について検討

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
環境汚染物質の放射化分析に関する専門委員会 〔昭和46年 9月～49年11月〕	○ 技術上の問題点，利用促進のための当面および将来の体制整備等に関する検討 * 「環境汚染物質の放射化分析における諸問題」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 12(1975)
硫黄分析計専門委員会 〔昭和46年 9月～52年 9月〕	○ 硫黄分析計利用状況アンケート調査 石油中重金属の測定値に及ぼす影響に関する共同実験，硫黄分測定照合実験（参加20機関） * 「RI式硫黄分析計による重油試料測定上の問題点 1. 放射線透過式硫黄分析計」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 11(1975) * 「（同上）2. 放射線励起式硫黄分析計」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 12(1975) * 「（同上）3. 照合試験」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 25, No. 2(1976) * 「JIS K2285-1978 石油製品放射線透過式硫黄分試験方法」原案の作成（昭和56年3月制定） * 「JIS K2286-1978 石油製品放射線励起式硫黄分試験方法」原案の作成（昭和56年3月制定）
流れの測定に関する専門委員会 〔昭和46年10月～49年 3月〕	○ 野外および各種工程における気体、液体、粉体の流れ・拡散の測定へのRI利用測定技術について検討 * 「表面水流れ測定へのアイソトープの利用」、 「化学反応装置内の流れの測定」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 25, No. 3(1976)
環境物質放射化分析専門委員会 〔昭和50年 1月～51年 1月〕	○ 利用状況アンケート調査 * 「放射化分析利用の手引き 環境調査と放射化分析―」（昭和51年5月）を自治体公害調査部門等へ配布 * 「環境物質の調査における放射化分析の利用状況」 Isotope News誌、昭和50年12月号(1975)
環境物質放射化分析マニュアル作成検討専門委員会 〔昭和51年 7月～52年 9月〕	○ 上記2専門委員会の活動成果に基づき、環境試料の放射化分析技術に関する手引書の作成について予備的検討 * 「放射化分析による環境調査―微量・多元素・同時分析の手法」（昭和54年3月刊行(1979)）
放射能標準体使用マニュアル作成専門委員会 〔昭和52年 2月～56年 7月〕	○ 各種の放射能標準体・標準線源の適正な使用に資する解説書の作成 * 「放射能標準体・標準線源とその使用法」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 28, No. 3～12(1979)、 Vol. 29, No. 1(1980) 昭和56年5月単行書刊行(1981)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>利用機器専門委員会 〔昭和53年 6月～57年 5月〕</p> <p>RI野外トレーサ利用専門委員会設立検討会 〔昭和58年 3月～ 9月〕</p> <p>放射線防護機器専門委員会 〔昭和58年 6月～現在〕</p>	<p>○ 放射性同位元素装備機器管理基準に関する調査（科学技術庁委託）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「JIS Z4821 1981 密封放射線源」原案を作成（昭和56年3月制定）</li> <li>* 「RI装備機器・設計承認制度について」Isotope News誌、昭和56年5月号(1981)</li> </ul> <p>○ RI野外トレーサ実験実施上の問題点を抽出し、野外トレーサ利用促進のための専門委員会作業の要否を明らかにし、専門委員会設置の要を報告</p> <p>○ 放射線防護機器に関する資料を収集・検討し、隔年毎に「放射線防護用設備・機器ガイド」を編集・発行。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「1982年版」（昭和57年発行）</li> <li>* 「1984年版」（昭和59年発行）</li> <li>* 「1986／87年版」（昭和61年発行）</li> <li>* 「1988／89年版」（昭和63年発行）</li> <li>* 「1990／91年版」（平成2年発行）</li> <li>* 「1992／93年版」（平成4年発行）</li> <li>* 「1994／95年版」（平成6年発行）</li> <li>* 「1996／97年版」（平成8年発行）</li> <li>* 「1998／99年版」（平成10年発行）</li> <li>* 「2000／01年版」（平成12年発行）</li> <li>* 「2002／03年版」（平成14年発行）</li> <li>* 「2004／05年版」（平成16年発行）</li> <li>* 「2006／07年版」（平成18年発行）</li> <li>* 「2008／09年版」（平成20年発行）</li> </ul>
<p>RI野外トレーサ実験調査委員会 〔昭和59年 4月～平成 2年 6月〕</p>	<p>○ RI野外利用の実施を探るため、理工学、農学・生物学の分野で実験の実現が望まれている代表的なモデルについて検討を行うとともに科学技術庁と懇談、折衝。技術基準・安全基準の検討、アンケート調査の実施、講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「RI野外トレーサ利用アンケート集計結果報告」Isotope News誌、昭和62年5月号“あいそとぴっく”（1987）</li> <li>* 「放射性トレーサの野外・現場利用の歴史と現状」RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 4～6(1988)</li> <li>* 「放射性トレーサの野外・現場利用推進上の問題点」RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 6(1990)</li> </ul>
<p>密封放射線源JIS改訂専門委員会 〔昭和60年 4月～12月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「JIS Z4821密封放射線源」（昭和56年3月制定）の見直し</li> </ul>
<p>原子力用語JIS改訂専門委員会 〔昭和61年 8月～平成 4年 5月〕</p>	<p>○ 日本工業規格「JIS Z4001原子力用語」の改訂に当たり、「放射線・アイソトープ利用・防護」部門の用語について調査検討。</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
理工分野における放射性廃棄物検討専門委員会 〔平成 3年 9月～ 6年 5月〕	* 「研究分野における放射性廃棄物の取扱い」 (平成6年5月刊行(1994))
微弱アイソトープ利用技術専門委員会 〔平成 4年 6月～10年 5月〕	○ 微弱アイソトープ利用の促進と安全性の確保について調査・検討 * 「IAEA安全シリーズ No. 102、工業、医学、研究、教育分野におけるアイソトープの安全使用と規則に関する勧告の抄訳」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 3(1995) * 「微弱アイソトープの安全利用に関する調査研究報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 2～4(1999)
放射性同位体等の産業利用専門委員会 〔平成 7年 8月～12年 5月〕	○ 産業分野におけるRI利用技術の調査、許認可申請の標準化について検討を行った。 * 「RI・放射線の産業利用」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 46, No. 5～10(1997) * 「放射性同位体等の産業利用専門委員会報告書」 (平成12年5月)
放射線教育専門委員会 〔平成7年 8月～16年 5月〕	○ 放射線教育入門テキスト〔ライフサイエンス分野編〕を編集し、テスト版として発行。(平成10年3月) 放射線教育入門テキスト〔医学・臨床分野編〕を (平成11年1月) 編集し、テスト版として発行。
量子ビーム専門委員会 〔平成12年 6月～平成18年 5月〕	○ ①新しい量子ビームの発生と利用②半導体プロセスや医療への放射線利用③量子ビーム利用に関する法規制の最適化等について検討を行うとともに、外部利用を受け付けるビーム利用施設の調査を行う。 * 「日本における研究用加速器施設の現状アンケートに関する中間報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 7(2003) * 「日本における研究用加速器施設の現状(2005)調査報告と量子ビーム利用の広がり」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 54, No. 12(2005)
放射線イメージング専門委員会 〔平成12年 6月～平成18年 5月〕	○ 放射線イメージングの技術・学問内容について調査し、他のイメージング技術も参照しつつ、放射線イメージング技術の新しい方向について検討。 * 「放射線イメージング技術の最前線」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 10～Vol. 53, No. 6(2003～2004)
超低レベル放射能測定専門委員会 〔平成16年 9月～現在〕	○ 通常の放射線計測技術では測定が困難なあるいは検出が不可能な極微弱放射能の測定の重要性が増している現状を認識し、超低レベル放射能測定技術の発展と展望を探るために調査・検討を行う。 * 「超低レベル放射能測定の現状と展望」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 55, No. 4～No. 11(2006) 合本冊子を作成。協会ホームページに掲載。

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>中性子イメージング専門委員会 〔平成17年 9月～現在〕</p> <p>RI・放射線 一般向け教育実験ノート ワーキンググループ</p>	<p>○ 中性子ラジオグラフィの現状を認識し、その技術の発展と展望を探るための調査・検討を行う。</p> <p>* 「中性子イメージング技術の基礎と応用」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 4～Vol. 57, No. 5(2007～2008) 合本冊子を作成。</p> <p>○ RI・放射線関係者以外の人達にRI・放射線、ひいては自然現象に対する理解を深めて貰うことに寄与するため、RI・放射線等に関する教育的実験についての情報を集め、取り纏めてIsotope News誌に掲載。このような実験を多くの場に取り入れてもらおう一助とする。</p> <p>* 「RI・放射線 一般向け教育実験ノート」 Isotope News誌、平成18年4月号～平成19年5月号、平成20年3月号～5月号、7月号～12月号(2006～2008) 合本冊子を作成。</p>

2. ライフサイエンス部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>文献専門委員会 〔昭和39年 4月～平成 4年 5月〕</p>	<p>○「RI農学・生物学利用文献集」（昭和55年2月までは「RI農学・生物学利用文献抄録集」）の編集を行い、RADIOISOTOPES誌に毎号、農学・生物学文献題目集および農学・生物学文献トピックスを掲載。</p>
<p>ラジオガスクロマトグラフィ専門委員会 〔昭和43年 3月～50年 9月〕</p>	<p>○農学・生物学分野におけるラジオガスクロマトグラフィに関する技術の利用開発、普及について調査、検討。</p>
<p><sup>15</sup>N専門委員会 〔昭和48年 9月～51年 2月〕</p>	<p>○内外の関係文献の調査と勉強会などを開催し、利用の知識・方法の普及を検討。 安定同位元素専門委員会へ発展的に改組。</p>
<p>安定同位元素専門委員会 〔昭和51年 3月～現在〕</p>	<p>○安定同位元素に関し、その研究・利用の全般的な推進に資する活動を行う。 * 「安定同位体利用技術」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 6～Vol. 57, No. 3、Vol. 57, No. 9(2007～2008)</p>
<p>微量R1の管理に関する専門委員会 〔昭和48年 9月～57年 5月〕</p>	<p>○生化学分野における微量RIの使用施設の在り方、排水処理の方法、貯蔵・保管の方法、固体廃棄物・有機廃液の処理等の可能性について検討。</p>
<p>遺伝子工学専門委員会 〔昭和61年10月～平成 4年 5月〕</p>	<p>○生物学関連の遺伝子工学分野におけるR1利用状況を調査 * 「遺伝子工学実験講座」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 10～Vol. 38, No. 2, 4(1987～1989) 合本し、「遺伝子工学実験 Strategy &amp; Practice」として平成3年5月出版(1991)。</p>
<p>アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p>	<p>○RIをトレーサとして用いる研究用機器について、その原理、性能、特徴および適切な用途等の最新情報を収集し、公表した。 * 「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 42, No. 10～No. 12、Vol. 43, No. 1(1993～1994) * 「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器（第二シリーズ）」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 8～No. 12、Vol. 45, No. 1～No. 2(1995～1996) * 「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器（第三シリーズ）」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 11～No. 12、Vol. 48, No. 1～No. 5、No. 7～No. 9、No. 11～No. 12、Vol. 49, No. 1～No. 2、No. 10～No. 12、Vol. 50, No. 1～No. 2(1998～2001) 第一、第二シリーズの合本冊子を作成。 第三シリーズを協会ホームページに掲載。 (平成14年2月)</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p>	<p>* 「ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器（第四シリーズ）」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 3～No. 6、 Vol. 53, No. 3、Vol. 54, No. 1～No. 2、No. 7～ No. 8(2003～2005) 第四シリーズを協会ホームページに掲載。 (平成17年9月)</p> <p>* 「ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器（第五シリーズ）」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 55, No. 7～No. 10、 Vol. 56, No. 3～No. 4、No. 9、Vol. 57, No. 2 (2006 ～2008)</p>
<p>分子生物学分野のRI取扱専門委員会 (平成8年6月より、「ライフサイエンス分野 のRI取扱専門委員会」に名称変更) 〔平成 4年 6月～平成14年 5月〕</p>	<p>○ 分子生物学分野（ライフサイエンス分野）における RI取扱上の諸問題について安全で円滑な利用を図る ための調査、検討を行った。</p> <p>* 「分子生物学分野のRI取扱専門委員会報告」 Isotope New誌、平成6年9月号 “会員へのお知らせ” (1994)</p> <p>* 「分子生物学分野のRI取扱専門委員会報告 －「監督区域」設置の可能性を探るアンケート の結果－」 “会員へのお知らせ” (1995)</p> <p>* 「ライフサイエンスの話題」 Isotope News誌、平成15年2月号～5月号(2003)</p>
<p>薬学・薬理学研究専門委員会 〔平成 6年11月～現在〕</p>	<p>○ 薬学・薬理学研究分野におけるRI利用の問題点を調 査した。</p> <p>* 「薬学・薬理学研究専門委員会報告－薬学・薬理 学研究分野のRI取扱いに関するアンケート結果 Isotope New誌、平成9年4月号 “会員へのお知らせ” (1997)</p> <p>* 「薬学・薬理学研究専門委員会報告－薬学・薬理 学研究分野における放射線・放射能計測法に関す るアンケート結果－」 Isotope New誌、平成11年11月号 “会員へのお知 らせ” (1999)</p> <p>* 「R I 計測のためのQ &amp; A」 協会ホームページに掲載。(平成17年7月)(2005)</p> <p>* 「マイクロドーズ試験の現状と展望」 Isotope New誌、平成20年4月号 “展望” (2008)</p>
<p>獣医核医学専門委員会 〔平成14年 6月～現在〕</p>	<p>○ 伴侶動物への核医学診療における諸問題の検討を行 う。</p> <p>* 「獣医核医学専門委員会 中間報告書」 (平成15年9月2日)(2003)</p>
<p>食品照射専門委員会 〔平成14年 6月～現在〕</p>	<p>○ 食品照射についての内外の情報を集め、調査・検討 を行う。</p> <p>* 「食品照射に関するQ &amp; A」 協会ホームページに掲載。(平成20年11月)(2008)</p>



3. 医学・薬学部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>インビトロテスト専門委員会 〔昭和46年 9月～現在〕</p>	<p>* 「RIインビトロ検査全国コントロールサーベイ」 (第1回～21回までRADIOISOTOPES誌に掲載)</p> <p>* 「イムノアッセイ検査全国コントロールサーベイ」 (第22回より名称変更。RADIOISOTOPES誌に掲載)</p> <p>第1回 (1978年実施)、Vol. 29, No. 11 (1980)            第2回 (1979年実施)、Vol. 30, No. 1 (1981)            第3回 (1980年実施)、Vol. 31, No. 7 (1982)            第4回 (1982年実施)、Vol. 32, No. 6 (1983)            第5回 (1983年実施)、Vol. 32, No. 7, 8 (1983)            第6回 (1984年実施)、Vol. 34, No. 9 (1985)            第7回 (1985年実施)、Vol. 35, No. 10 (1986)            第8回 (1986年実施)、Vol. 36, No. 10 (1987)            第9回 (1987年実施)、Vol. 37, No. 11 (1988)            第10回 (1988年実施)、Vol. 38, No. 10 (1989)            第11回 (1989年実施)、Vol. 39, No. 10 (1990)            第12回 (1990年実施)、Vol. 40, No. 10 (1991)            第13回 (1991年実施)、Vol. 41, No. 11 (1992)            第14回 (1992年実施)、Vol. 42, No. 11 (1993)            第15回 (1993年実施)、Vol. 43, No. 10 (1994)            第16回 (1994年実施)、Vol. 44, No. 11 (1995)            第17回 (1995年実施)、Vol. 45, No. 11 (1996)            第18回 (1996年実施)、Vol. 46, No. 11 (1997)            第19回 (1997年実施)、Vol. 47, No. 11 (1998)            第20回 (1998年実施)、Vol. 48, No. 11 (1999)            第21回 (1999年実施)、Vol. 49, No. 10 (2000)            第22回 (2000年実施)、Vol. 50, No. 10 (2001)            第23回 (2001年実施)、Vol. 51, No. 10 (2002)            第24回 (2002年実施)、Vol. 52, No. 10 (2003)            第25回 (2003年実施)、Vol. 53, No. 10 (2004)            第26回 (2004年実施)、Vol. 54, No. 10 (2005)            第27回 (2005年実施)、Vol. 55, No. 10 (2006)            第28回 (2006年実施)、Vol. 56, No. 10 (2007)            第29回 (2007年実施)、Vol. 57, No. 10 (2008)</p> <p>* 「The Large “Kit-to-Kit” Variation in Insulin Radioimmunoassay is Mainly Due to Defference in Standard Concentration」 CHEMISTRY, Vol. 28, No. 12</p> <p>* 「An Inter- and Intra-laboratory Quality-Control Survey of Radioimmunoassay of Insulin, Thyroxin, Thyrotropin, Cortisol, Digoxin, Gastrin, <math>\beta</math>2-Microglobulin and IgE in Japan with Commercially Available Kits」 CHEMISTRY, Vol. 29, No. 8</p> <p>* 「RIインビトロ検査の現状と問題点」 Isotope News誌、1992年2～3月号</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
放射性医薬品安全性専門委員会 〔昭和50年10月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「放射性医薬品副作用事例調査報告」 核医学、16巻3号(1979)</li> <li>* 「第2回放射性医薬品副作用事例調査報告」 核医学、18巻3号(1981)</li> <li>* 「放射性医薬品副作用事例調査報告」 (第3報～27報まで『核医学』に掲載) 第3報(19巻7号(1982))、第4報(20巻4号(1983)) 第5報(21巻3号(1984))、第6報(22巻4号(1985)) 第7報(23巻4号(1986))、第8報(24巻4号(1987)) 第9報(25巻4号(1988))、第10報(26巻4号(1989)) 第11報(28巻3号(1991))、第12報(28巻4号(1991)) 第13報(29巻3号(1992))、第14報(30巻5号(1993)) 第15報(31巻3号(1994))、第16報(32巻6号(1995)) 第17報(33巻6号(1996))、第18報(34巻4号(1997)) 第19報(35巻3号(1998))、第20報(36巻3号(1999)) 第21報(37巻3号(2000))、第22報(38巻2号(2001)) 第23報(39巻1号(2002))、第24報(40巻1号(2003)) 第25報(41巻1号(2004))、第26報(42巻1号(2005)) 第27報(43巻1号(2006))、第28報(44巻1号(2007)) 第29報(45巻1号(2008))、第30報(46巻1号(2009))</li> <li>* 「放射性医薬品の副作用事例報告について—調査報告書における症例数と製薬会社が収集した自発症例数との比較—」 核医学、43巻4号(2006)</li> </ul>
核医学イメージング規格化専門委員会 〔昭和53年 1月～平成 8年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「シンチカメラ性能の定期点検に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 30, No. 7(1981)</li> <li>* 「キュリーメータの試験方法」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 4(1983)</li> <li>* 「Single Photon Emission Computed Tomography装置の性能試験条件」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 33, No. 3(1984)</li> <li>* 「核医学イメージングの規格化に関する勧告 (1984改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 9(1983)</li> <li>* 「SPECT像表示の規格化に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 35, No. 8(1986)</li> <li>* 「核医学イメージングの規格化に関する勧告 (1987年第2次改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 2～3(1988)</li> <li>* 「核医学イメージングのための小児への放射性医薬品投与量に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 11(1988)</li> <li>* 「SPECT装置の回転軸ずれおよびイメージサイズ変動に関する日常試験」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 2(1990)</li> <li>* 「核医学イメージング装置の保守点検に関する実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 41, No. 3(1992)</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
核医学イメージング規格化専門委員会 〔昭和53年 1月～平成 8年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「ガンマカメラによるデジタル画像の表示・記録に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 1(1994)</li> <li>* 「標準的な核医学イメージングプロトコール(1994年第3次改訂)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 9(1994)</li> <li>* 「日常臨床における心臓核医学検査の選択に関する試案」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 45, No. 3(1996)</li> </ul>
医療放射線管理問題専門委員会 〔昭和53年 1月～57年 7月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「平均使用数量の導入による <math>^{11}\text{C}</math>、<math>^{13}\text{N}</math>、<math>^{15}\text{O}</math>、<math>^{18}\text{F}</math> の1日最大使用数量の求め方」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 31, No. 7(1982)</li> </ul>
核医学用語分類専門委員会 〔昭和53年 1月～59年11月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「医療行為の国際分類(ICPM)コード利用による全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 9(1983)</li> </ul>
サイクロトロン核医学利用専門委員会 〔昭和56年 9月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「日本アイソトープ協会医学・薬学部サイクロトロン核医学利用専門委員会において成熟技術として認定された放射性薬剤の基準と臨床使用に関する指針：Ⅰ 院内サイクロトロン放射性薬剤に関する指針、Ⅱ 院内サイクロトロン放射性薬剤の臨床利用に関する指針、Ⅲ サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 34, No. 11(1985)</li> <li>* 「院内サイクロトロン放射性薬剤の前臨床段階における安全性の評価に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 35, No. 11(1986)</li> <li>* 「日本アイソトープ協会医学・薬学部サイクロトロン核医学利用専門委員会において成熟技術として認定された放射性薬剤の基準と臨床利用に関する指針(続報Ⅰ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 8(1988)</li> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1990年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 40, No. 3(1991)</li> <li>* 「What is PET? “Q and A” —PETをよりよく理解するために—」</li> <li>* PET装置の性能評価のための測定指針(1992年4月)</li> <li>* PET装置の性能評価のための測定指針(1994年6月改訂) RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 9(1994)</li> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1994年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 6(1995)</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>サイクロトロン核医学利用専門委員会  (平成17年11月より、「ポジトロン核医学利用  専門委員会」に名称変更)  〔昭和56年 9月～現在〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1999年改定)」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 12(1999)</li> <li>* 「PET薬剤製造施設基準」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 49, No. 3(2000)</li> <li>* 「FDG-PET検査の臨床的有用性と医療経済効果に関する全国調査報告」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 49, No. 3(2000)</li> <li>* 「院内製造されたFDGを用いてPET検査を行うためのガイドライン」  核医学、38巻2号(2001)</li> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定)」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 5(2001)</li> <li>* 「『サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定)』に関する解説」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 5(2001)</li> <li>* 「『サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定)』に関する参考資料」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 5(2001)</li> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1999年改定追補)」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 7(2001)</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告」  Isotope News誌、2003年11月号</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第2報」  Isotope News誌、2005年2月号</li> <li>* 「院内製造されたFDGを用いたPET検査を行うためのガイドライン 第2版」  核医学、42巻4号(2005)</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第3報」  Isotope News誌、2006年10月号</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第4報」  Isotope News誌、2008年1月号</li> <li>* 「保険診療に認められていない悪性腫瘍(癌、肉腫)の診断における[18F]FDG-PETの臨床的有用性—多施設アンケート調査による検討—」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 57, No. 1(2008)</li> <li>* 「PET用放射性医薬品の合成、分注、品質管理に携わる作業者の被ばく線量調査報告」  Isotope News誌、2008年10月号</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第5報」  Isotope News誌、2008年12月号</li> <li>* 「PET核医学におけるサイクロトロン施設からの漏えい線量等に係る検討ワーキンググループ報告書」(2009)</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>核医学技術専門委員会  (平成6年6月～8年5月まで核医学技術小委員会  として核医学イメージング規格化専門委員会  に置かれる)  〔昭和59年 6月～平成 6年 5月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「核医学検査室における機器及び施設等の安全管理に関するアンケート調査結果」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 9(1987)</li> <li>* 「核医学検査室における機器及び施設等の安全管理に関するアンケート調査報告 第2報」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 11(1990)</li> <li>* 「核医学検査室における機器等の安全管理に関するアンケート調査報告 第3報」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 3(1994)</li> <li>* 「キュリーメータの測定精度実態調査報告」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 8(1994)</li> </ul>
<p>核医学イメージング・検査技術専門委員会  (平成8年より核医学イメージング規格化専門  委員会と核医学技術小委員会が合併した)  〔平成 8年 6月～現在〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「核医学検査室における機器等の安全管理に関するアンケート調査報告 第3報」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 45, No. 12(1996)</li> <li>* 「核医学画像と形態画像 (CT/MRI) の重ね合わせの現状と普及に向けての提案」  Isotope News誌、1997年12月号</li> <li>* 「核医学検査室における機器及び施設等の安全管理に関するアンケート調査報告 第2報」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 5(1998)</li> <li>* 「核医学の安全管理等に関するアンケート調査報告 第5報」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 8(1999)</li> <li>* 「全身イメージングにおける適正スキャン速度に関する指針」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 51, No. 7(2002)</li> <li>* 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第6報」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 51, No. 8(2002)</li> <li>* 「核医学紹介シリーズ」 (平成14年10月)</li> <li>* 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第7報」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 54, No. 7(2005)</li> <li>* 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第8報」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 57, No. 7(2008)</li> </ul>
<p>薬学専門委員会  (平成6年より「放射性医薬品専門委員会」に  名称変更)  〔昭和44年 6月～平成 6年〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「放射性医薬品の最近の話題」 (RADIOISOTOPES誌  講座合本)  RADIOISOTOPES誌、Vol. 33, No. 1～7(1984)</li> <li>* 「放射性医薬品の安全取扱と管理」  JJSHP、Vol. 26, No. 12 (1990)</li> </ul>
<p>放射性医薬品専門委員会  〔平成 6年 6月～現在〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「治療用放射性医薬品に関するアンケート調査報告」  Isotope News誌、1998年11月号</li> <li>* 「標識キット方式による<sup>99m</sup>Tc放射性医薬品の調製について」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 53, No. 3(2004)</li> <li>* 「薬による放射性医薬品の体内挙動の変化について」  RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 1(2007)</li> </ul>
専門委員会・〔活動期間〕	摘 要

放射線治療専門委員会

〔昭和57年 6月～平成 4年 5月、  
平成12年 6月～現在〕

放射線治療委員会

〔平成 4年 6月～平成12年5月〕

核医学診療実態調査専門委員会

(平成8年より「全国核医学診療実態調査専門  
委員会」に名称変更)

全国核医学診療実態調査専門委員会

〔平成 8年 6月～10年 5月〕

全国核医学診療実態調査専門委員会

〔平成13年 9月～16年 5月〕

全国核医学診療実態調査専門委員会

〔平成18年10月～平成20年 5月〕

アイソトープ内用療法専門委員会

〔平成18年 5月～現在〕

標識抗体医学利用専門委員会

〔昭和63年 4月～平成 3年 5月〕

- \* 「密封小線源の管理(RADIOISOTOPES誌講座合本)」  
RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 2～6(1987)
- \* 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療  
の安全管理に関するガイドライン」(初版・第二  
版)(2003)
- \* 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療  
の安全管理に関するガイドライン」(第三版)(2004)
- \* 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療  
の安全管理に関するガイドライン」(第四版)(2005)
- \* 「前立腺癌小線源療法後1年以内死亡時の対応マニ  
ュアル」(2008)

- \* 「高線量率RALS安全取扱マニュアル」  
RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 10(1999)

- \* 「第2回全国核医学診療実態調査報告」  
RADIOISOTOPES誌、Vol. 38, No. 4(1989)
- \* 「第3回全国核医学診療実態調査報告」  
RADIOISOTOPES誌、Vol. 42, No. 9～10(1993)

- \* 「第4回全国核医学診療実態調査報告」  
RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 8(1998)

- \* 「第5回全国核医学診療実態調査報告書」  
RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 8(2003)
- \* Nuclear medicine practice in Japan: A report  
of the 5th nationwide survey in 2002  
Annals of Nuclear Medicine Vol. 18, No. 1

- \* 「第6回全国核医学診療実態調査報告書」  
RADIOISOTOPES誌、Vol. 57, No. 8(2008)
- \* Nuclear medicine practice in Japan: a report  
of the sixth nationwide survey in 2007  
Annals of Nuclear Medicine Vol. 23, No. 2

- \* 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチ  
ウム(Sr-89)治療の適正使用マニュアル」(初  
版)(2007)
- \* 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチ  
ウム(Sr-89)治療の適正使用マニュアル」(第二版・  
第三版)(2008)
- \* 「イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫  
療法の適正使用マニュアル」(初版)(2008)

- \* 「医学研究施設内で作られたRI標識モノクローナル  
抗体の臨床利用に関する指針」  
RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 12(1990)  
核医学、第28巻3号(1991)  
日本医放会誌、第51巻5号(1991)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
放射性医薬品施設内管理専門委員会 〔平成 1年10月～ 4年 5月〕	* 「放射性医薬品の施設内取扱に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 41, No. 2(1992)
免疫核医学専門委員会 〔平成 5年 7月～ 8年 5月〕	* 「遺伝子組換え技術を応用して作られたRI標識モノクローナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 8(1994) * 「RI標識モノクローナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 8(1995)

4. 放射線取扱主任者部会

4.1 組織改正以前（昭和34年12月～平成 4年 5月）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>東京常任委員会 〔昭和34年12月～平成 4年 5月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Isotope News No. 68～382「主任者コーナー」の編集（1960.4～1992.5）</li> <li>* 「第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第5～36回） Isotope News(1961～1992)</li> <li>* 「放射線施設の火災対策」（1961）</li> <li>* 「密封小線源の取扱」（1962）</li> <li>* 「個人外部被ばくモニタリングの手引き」（1964）</li> <li>* 「放射線管理実務マニュアルⅠ」（1983）</li> <li>* 「放射線施設の火災・地震対策」（1985）</li> <li>* 「外部被ばくモニタリング」（1986）</li> <li>* 「千葉県東方沖地震状況調査」 Isotope News 1988年8月号</li> <li>* 「千葉県東方沖地震状況調査」 Radioisotopes 38,2(1989)</li> <li>* 「改訂放射線管理実務マニュアルⅠ」（1989）</li> <li>* 「放射線障害防止教育訓練用OHPシート」（1991）</li> <li>* 「放射線管理実務マニュアルⅡ」（1991）</li> <li>* 「現行法令の課題」（1992）</li> </ul>
<p>関西常任委員会 〔昭和36年 7月～平成 4年 5月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第1～33回） Isotope News(1961～1992)</li> <li>* 「放射線とアイソトープ」（1962）</li> </ul>
<p>中部常任委員会 〔昭和55年 6月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>北海道地方委員 〔平成 2年 4月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>東北地方委員 〔昭和57年11月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>九州地方委員 〔昭和57年11月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>基盤整備委員会 〔平成 2年11月～平成 3年 3月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「平成3年度主任者研修会（第32回部会総会）要旨集（補冊）」（1991） 基盤整備委員会報告書</li> </ul>
<p>新体制移行委員会 〔平成 3年 9月～平成 4年 3月〕</p>	



4.2 組織改正以後（平成 4年 6月～現在）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>【本部組織】 本部運営委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・企画委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・広報委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・法令検討委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・組織化推進委員会 〔平成 8年 6月～平成14年 5月〕</p>	<p>* 「平成 4年度主任者研修会（第33回部会総会）要旨集」（1992）</p> <p>* 「21世紀の主任者部会活動に向けて」（1996）</p> <p>* ニューメディア教育訓練用教材CD-ROM試作版（1999年8月）</p> <p>* Isotope News No. 383～659「主任者コーナー」の編集（1992.6～2009.3）</p> <p>* 「主任者ニュース」第 1～14号編集（1995～2008）</p> <p>* 「改訂 3版 放射線管理実務マニュアル I」平成5年9月（1993）</p> <p>* 法令検討委員会報告（案）（現行法令の課題）（平成11年10月）</p> <p>* 法令検討委員会報告（現行法令の課題）平成12年度主任者年次大会要旨集, 2000, P. 223</p> <p>* 法令改正への対応に際してのQ &amp; A（1） Isotope News, 2001, 6月号, P. 47</p> <p>* 法令改正への対応に際してのQ &amp; A（2） Isotope News, 2001, 7月号, P. 50</p> <p>* Q &amp; A：BSS免除レベルの取り入れで法令はどう変わるのか Isotope News, 2003, 11月号, P. 63</p> <p>* 法令検討委員会報告書「放射線取扱主任者のあり方」について Isotope News, 2004, 7月号, P. 79</p> <p>* 改正法令に関するQ &amp; A：放射線障害防止法及び関係政省令等の改正について Isotope News, 2005, 6月号, P. 45</p> <p>* 「事業主の責務と放射線取扱主任者のあり方について」 Isotope News, 2006, 4月号, P. 76</p> <p>* 「放射性同位元素使用施設等で発生する廃棄物のクリアランスについての現状」 Isotope News, 2006, 10月号, P. 11</p> <p>* クリアランスを巡る最近の動きについて －クリアランスの運用状況及びICRPの新勧告－ Isotope News, 2008, 5月号, P. 64</p> <p>* 「選任放射線取扱主任者のアンケート調査」結果報告 Isotope News, 2000, 6月号, P. 53</p> <p>* 「組織化推進委員会活動報告」 Isotope News, 2002, 7月号, P. 49</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任者部会－21世紀のあり方検討委員会 〔平成 8年11月～平成12年 5月〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「主任者部会・21世紀のあり方」中間報告書 平成11年度主任者年次大会要旨集, 1999, P. 135</li> <li>* 「主任者部会・21世紀のあり方」報告書 (平成11年11月)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線管理技術検討委員会 〔平成10年 4月～平成14年 5月〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「放射線施設の遮蔽能力・放射性物質飛散率評価に関する調査研究（中間報告）」(1998)</li> <li>* 「放射線管理技術検討委員会活動報告」 Isotope News, 2002, 10月号, P. 63</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・製薬放射線委員会 〔平成10年 6月～平成12年 5月〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「ラジオアイソトープを用いた動物実験での文献調査－飛散率について－」 RADIOISOTOPES誌 Vol. 47, No. 11(1998)</li> </ul>
<p>【 支部組織 】</p> <p>北海道支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成11年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成19年度主任者部会年次大会実行委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「北海道東方沖地震放射線施設状況調査」 Isotope News, 1995, 10月号, P. 79</li> <li>* 「平成11年度主任者年次大会（第40回主任者研修会）要旨集」(1999)</li> <li>* 「平成19年度主任者部会年次大会（第48回放射線管理研修会）要旨集」(2007)</li> </ul>
<p>東北支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 7 年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成16年度主任者部会年次大会実行委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「三陸はるか沖地震放射線施設状況調査」 Isotope News, 1995, 10月号, P. 74</li> <li>* 「平成 7 年度主任者年次大会（第36回主任者研修会）要旨集」(1995)</li> <li>* 「平成16年度主任者部会年次大会（第45回放射線管理研修会）要旨集」(2004)</li> </ul>
<p>関東支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 種放射線取扱主任者試験問題解答例作成委員会</li> <li>・平成 8 年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成12年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成15年度主任者部会年次大会実行委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第 1 種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第37～53回）Isotope News(1992～2009)</li> <li>* 「平成 8 年度主任者年次大会（第37回主任者研修会）要旨集」(1996)</li> <li>* 「平成12年度主任者年次大会（第41回主任者研修会）要旨集」(2000)</li> <li>* 「平成15年度主任者部会年次大会（第44回放射線管理研修会）要旨集」(2003)</li> </ul>
<p>中部支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 種放射線取扱主任者試験問題解答例作成委員会</li> <li>・平成 5 年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成13年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成20年度主任者部会年次大会実行委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第 2 種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第35, 49回）Isotope News 1993, 2008年 1 月号</li> <li>* 「平成 5 年度主任者年次大会（第34回主任者研修会）要旨集」(1993)</li> <li>* 「平成13年度主任者年次大会（第42回主任者研修会）要旨集」(2001)</li> <li>* 「平成20年度主任者部会年次大会（第49回放射線管理研修会）要旨集」(2008)</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>近畿支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 2 種放射線取扱主任者試験問題 解答例作成委員会</li> <li>・ 平成 6 年度主任者年次大会実行 委員会</li> <li>・ 平成14年度主任者年次大会実行 委員会</li> </ul> <p>中国・四国支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 9 年度主任者年次大会実行 委員会</li> <li>・ 平成17年度主任者部会年次大会実行 委員会</li> </ul> <p>九州支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成10年度主任者年次大会実行 委員会</li> <li>・ 平成18年度主任者部会年次大会実行 委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「阪神・淡路大震災の被災施設状況調査および救援 活動報告」 Isotope News, 1995, 4～8月号</li> <li>* 「第 2 種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第 34, 36～50回) Isotope News(1992, 1994～2009)</li> <li>* 「平成 6 年度主任者年次大会 (第35回主任者研修 会) 要旨集」(1994)</li> <li>* 「平成14年度主任者年次大会 (第43回主任者研修 会) 要旨集」(2002)</li> <li>* 「平成 9 年度主任者年次大会 (第38回主任者研修 会) 要旨集」(1997)</li> <li>* 「平成17年度主任者部会年次大会 (第46回放射線管 理研修会) 要旨集」(2005)</li> <li>* 「平成10年度主任者年次大会 (第39回主任者研修 会) 要旨集」(1998)</li> <li>* 「平成18年度主任者部会年次大会 (第47回放射線管 理研修会) 要旨集」(2006)</li> </ul>

本資料の発行及び問い合わせ先  
(社) 日本アイソトープ協会学術部  
〒113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45  
TEL (03)5395-8081 FAX (03)5395-8053